

## 【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年9月11日

【計算期間】 ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）  
第14特定期間（自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日）  
ブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）  
第14計算期間（自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日）

【ファンド名】 ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）  
ブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）

【発行者名】 アバディーン投信投資顧問株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 石川 五生

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門一丁目2番3号虎ノ門清和ビル

【事務連絡者氏名】 渡瀬 久美子

【連絡場所】 東京都港区虎ノ門一丁目2番3号虎ノ門清和ビル

【電話番号】 03-4578-2211

【縦覧に供する場所】 該当なし

## 第一部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

###### a. ファンドの目的

ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）およびブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）（以下、特段の定めのない限り、上記の各ファンドを「当ファンド」といいます。また、ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）を指して、「毎月決算型」、ブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）を指して、「年2回決算型」ということがあります。なお、上記の各ファンドの愛称として、「ブラジル・ドリーム」という名称を用いることがあります。）は、中長期的に信託財産の成長を目指して、積極的な運用を行います。

###### b. ファンドの特色

- 当ファンドは、主要投資対象とする外国投資証券「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」（ルクセンブルグ籍/円建て）を通じて、ブラジルの債券等に投資を行い、利金収入と値上がり益から中長期的に信託財産の成長を目指します。  
また、当ファンドの余裕資金の運用を行うため「アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル」（ルクセンブルグ籍/米ドル建て）を通じて、国外の公社債およびCP、CDを含む短期金融資産に投資を行います。  
当ファンドおよび投資対象とする外国投資証券は、原則として為替ヘッジは行いません。
- アバディーンのグローバルなネットワークを活用します。  
当ファンドの主要投資対象である「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」は、アバディーン・インターナショナル・ファンド・マネジャーズ・リミテッドがグローバルなネットワークを最大限活用して運用を行います。  
アバディーン・グループは、独自の調査・分析および判断に基づいた運用を基本とし、世界の市場を網羅した効率的な運用体制を構築しています。チーム運用重視、明確な運用プロセス、フラットな組織のもと、長期的視野に立った運用を行っています。
- アバディーンのブラジル債券運用の特色  
ソブリン債から社債まで債券市場全体をカバーします。  
市場のテクニカル分析にも裏付けされた戦略的なファンダメンタルズ・リサーチを行います。  
原則として、現物債券と通貨先物に投資します。  
リスクやボラティリティに関する独自の将来予想型の管理手法を用いて、分散されたポートフォリオを構築します。
- <毎月決算型>  
原則として、毎月20日に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。  
<年2回決算型>  
原則として、年2回（6月20日および12月20日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。



\* 上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

実質的に組入れる債券の利金収入・値上がり益を原資として分配を行う予定です。

ただし、基準価額の水準等を勘案して、収益分配を行わない場合があります。  
決算日が休業日の場合は、翌営業日を決算日とします。

## c. 信託金限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、＜毎月決算型＞、＜年2回決算型＞共に5,000億円を限度として信託金を追加することができます。

追加信託が行われたときは、受託会社はその引受けを証する書面を委託会社に交付します。

委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

## d. 商品分類等

当ファンドの商品分類<sup>\*</sup>は「追加型投信 / 海外 / 債券」です。

<sup>\*</sup>一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づきます。

商品分類		
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式 債券
	海外	不動産投信 その他資産（ ）
追加型投信	内外	資産複合

当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## &lt; 当ファンドが該当する商品分類の定義 &gt;

商品分類		定義
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるものをいいます。
投資対象地域	海外	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産（収益の源泉）	債券	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分				
投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性（ ） 不動産投信	年1回 ＜年2回決算型＞ 年2回 年4回 年6回（隔月）	グローバル （ ） 日本 北米 欧州 アジア オセアニア	ファミリー・ ファンド	あり （ ）
その他資産 （投資信託証券（債券）） 資産複合（ ） 資産配分固定型 資産配分変更型	＜毎月決算型＞ 年12回（毎月） 日々 その他（ ）	中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファンド・ オブ・ファンズ	なし

<sup>\*</sup>属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

## &lt; 当ファンドが該当する属性区分の定義 &gt;

属性の定義は、当ファンドの目論見書または信託約款において、次の記載があるものをいいます。

属性区分		定義
投資対象資産	その他資産	主として、株式、債券、不動産投信以外の資産に投資するものをいいます。
決算頻度	年2回	年2回決算を行うものをいいます。
	年12回（毎月）	年12回（毎月）決算を行うものをいいます。
投資対象地域	中南米	組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファンド・オブ・ ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

当ファンドは、外国投資証券への投資を通じて、実質的に債券を投資対象としております。したがって、「商品分類」における投資対象資産と、「属性区分」における投資対象資産は異なります。

(注)当ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のインターネット・ホームページ(<http://www.toushin.or.jp>)をご参照ください。

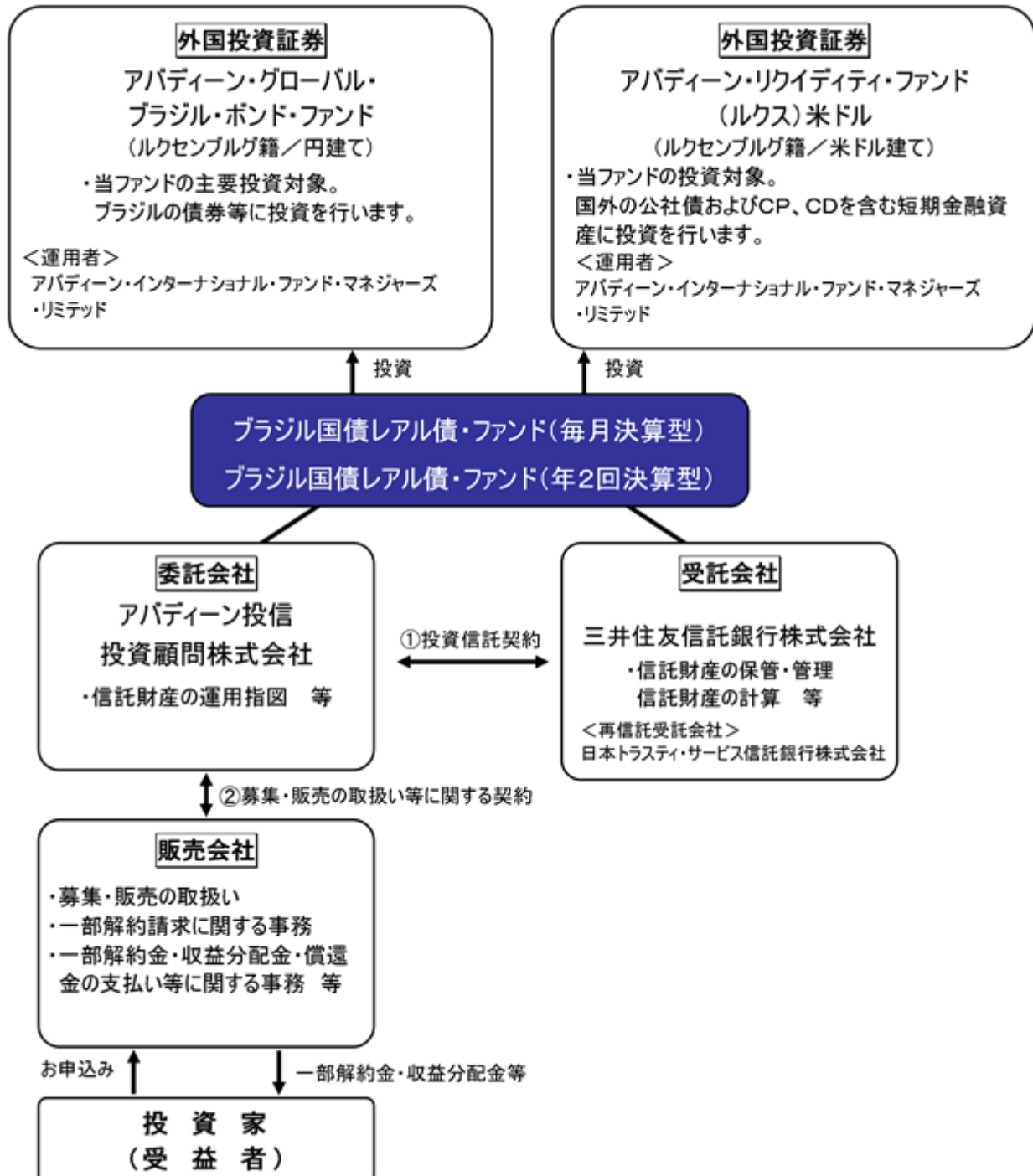
## (2) 【ファンドの沿革】

平成20年11月19日 信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始

平成21年7月1日 ブラジル国債レアル債・ファンド(毎月決算型)、ブラジル国債レアル債・ファンド(年2回決算型)へ名称変更

## (3) 【ファンドの仕組み】

### a. ファンドの仕組み



## &lt; 委託会社が関係法人と締結している契約等の概況 &gt;

## 受託会社（投資信託契約）

当ファンドの運用方針、運用制限、信託報酬の総額、手数料等、ファンドの設定・維持のために必要な事項について規定しています。

## 販売会社（募集・販売の取扱い等に関する契約）

委託会社が販売会社に委託するファンドの募集・販売に係る業務の内容、一部解約に係る事務の内容、およびこれらに関する手続き等について規定しています。

## b. 委託会社の概況

（以下に記載する情報は、本書提出日現在のものです。）

## 資本金の額

資本金 : 3,680.4百万円

発行する株式の総数 : 320,000株

発行済株式の総数 : 308,065株

## 会社の沿革

平成5年9月16日 クレディ・スイス投信株式会社設立

平成5年9月30日 証券投資信託委託業の認可

平成7年5月31日 投資顧問業の登録

平成9年3月31日 投資一任契約に係る業務の認可

平成9年4月1日 クレディ・スイス投資顧問株式会社と合併し、商号をクレディ・スイス投信投資顧問株式会社に変更

平成10年11月1日 商号をクレディ・スイス投信株式会社に変更

平成14年2月1日 ウォーバーク・ピンカス・アセット・マネジメント投信株式会社と合併

平成21年7月1日 商号をアバディーン投信投資顧問株式会社に変更

## 大株主の状況

名称	住所	所有株式数	比率
アバディーン・アセット・マネジメントPLC (Aberdeen Asset Management PLC)	英国スコットランド、 アバディーン	308,065株	100.00%

## 2【投資方針】

## (1)【投資方針】

## a. 基本方針

当ファンドは、投資対象とする外国投資証券を通じて、中長期的に信託財産の成長を目指して、積極的な運用を行います。

## b. 投資態度

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズであり、投資対象とする外国投資証券に組入れる銘柄の選択について重視し、当該ファンドに投資を行います。

当ファンドが投資対象とする外国投資証券は次のとおりです。

## アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド

当ファンドの主要投資対象です。主としてブラジルの債券等に投資を行います。

原則として、為替ヘッジは行いません。

ファンド名	アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド
形態	ルクセンブルグ籍 / 円建て / 外国投資証券
投資の目的	ブラジルの債券等に投資し、利金収入と値上がり益から中長期的に信託財産の成長を目指します。
投資対象	ブラジルの債券等に投資します。
運用の基本方針	中長期的に信託財産の成長を目的として運用を行います。 ブラジルの国債を主要投資対象として、アクティブ運用を行います。 先物取引等を、金利リスクの調整・回避などのために利用します。
設定日	平成24年6月15日
決算日	毎年9月末
分配金確定日	毎年1月、4月、7月、10月の1日
分配方針	毎年1月、4月、7月、10月の1日（分配金計算日）から2ヶ月以内（2月、5月、8月、11月の最終営業日迄）に分配を行います。ただし、マーケットの状況等によっては分配を行わない場合もあります。
運用報酬等	運用資産総額に対し、年率0.50%が運用報酬等としてかかります。 * 運用報酬等は将来的に変更になる場合があります。
その他費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有価証券・デリバティブ等の取引の手数料</li> <li>・ 外国証券を外国で保管する場合の費用</li> <li>・ 信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 一部解約に伴い立替を受ける場合や借入を行う場合の利息</li> <li>・ 監査費用および弁護士費用等</li> </ul>
申込手数料	ありません。
管理会社	アバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイ
投資顧問会社	アバディーン・インターナショナル・ファンド・マネジャーズ・リミテッド
副投資顧問会社	アバディーン・アセット・マネジャーズ・リミテッド（英国）
管理事務代行会社	登録・名義書換事務代行会社 ：アバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイ 管理事務代行会社 ：BNPパリバ・セキュリティーズ・サービスズ(ルクセンブルグ支店)（登録・名義書換事務代行を除きます。）
保管銀行	BNPパリバ・セキュリティーズ・サービスズ(ルクセンブルグ支店)

\* 当該ファンドは、ファンド・オブ・ファンズにのみ取得されることを目的とします。

## アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンドの運用プロセス

ステップ5: 十分にリスク管理され、分散したポートフォリオを構築します。

ステップ4: 投資ユニバース全体の中で各債券の相対バリュウを評価します。

ステップ3: 月次で独自のシナリオに基づくリスク調整後リターンを予測します。

ステップ2: 市場構造やテクニカル要因を分析します。

ステップ1: 独自のクントリー・リサーチ、企業リサーチを行います。



\* 上記のプロセスは将来予告なく変更される場合があります。

## アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル

当ファンドの余裕資金の運用を行うためのファンドです。国外の公社債およびC P、C Dを含む短期金融資産に投資を行います。

原則として、為替ヘッジは行いません。

ファンド名	アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル
形態	ルクセンブルグ籍 / 米ドル建て / 外国投資証券
主な投資対象	国外の公社債およびC P、C Dを含む短期金融資産等
運用の基本方針	主として国外の公社債および短期金融資産等に投資することにより安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を図ることを目標として運用を行います。
設定日	昭和59年9月17日
決算日	原則毎年3月31日
分配方針	分配は行いません。
管理費用	原則として、ありません。
その他費用	事務管理費用、保管費用等
申込手数料	原則として、ありません。
管理会社	アバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイ
投資顧問会社	アバディーン・インターナショナル・ファンド・マネジャーズ・リミテッド
管理事務代行会社	登録・名義書換事務代行会社： アバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイ 管理事務代行会社： ステート・ストリート・バンク・ルクセンブルグ・エス・シー・エイ (登録・名義書換事務代行を除きます。)
保管銀行	ステート・ストリート・バンク・ルクセンブルグ・エス・シー・エイ

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



**（２）【投資対象】**

以下に記載のa．からd．については、添付書類の当ファンドの信託約款から抜粋しております。

a．当ファンドは次の外国投資証券を投資対象とします。

- ・アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド（ルクセンブルグ籍／円建て）
- ・アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル（ルクセンブルグ籍／米ドル建て）

b．投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律（以下「投信法」といいます。）第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．金銭債権

ハ．約束手形（金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。）

ニ．金銭を信託する信託の受益権のうち有価証券の性質を有しないもの

次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

c．有価証券の指図範囲等

委託会社は、信託金を、主として、ルクセンブルグ籍の円建ての外国投資証券である「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」およびルクセンブルグ籍の米ドル建ての外国投資証券である「アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル」に投資を行うほか、次に掲げる有価証券に投資することを指図します。

コマーシャル・ペーパー

外国または外国の者の発行する証券または証書で、の証券または証書の性質を有するもの  
国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）

外国法人が発行する譲渡性預金証書

なお、第3号の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は短期社債等（社債等の振替に関する法律第66条第1号に規定する短期社債、保険業法第61条の10第1項に規定する短期社債、資産の流動化に関する法律第2条第8項に規定する特定短期社債、商工組合中央金庫法第33条の2に規定する短期商工債、信用金庫法第54条の4第1項に規定する短期債および農林中央金庫法第62条の2第1項に規定する短期農林債をいいます。）への投資ならびに買い現先取引（売戻し条件付の買い入れ）および債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行うことができるものとします。

d．金融商品の指図範囲等

委託会社は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

預金

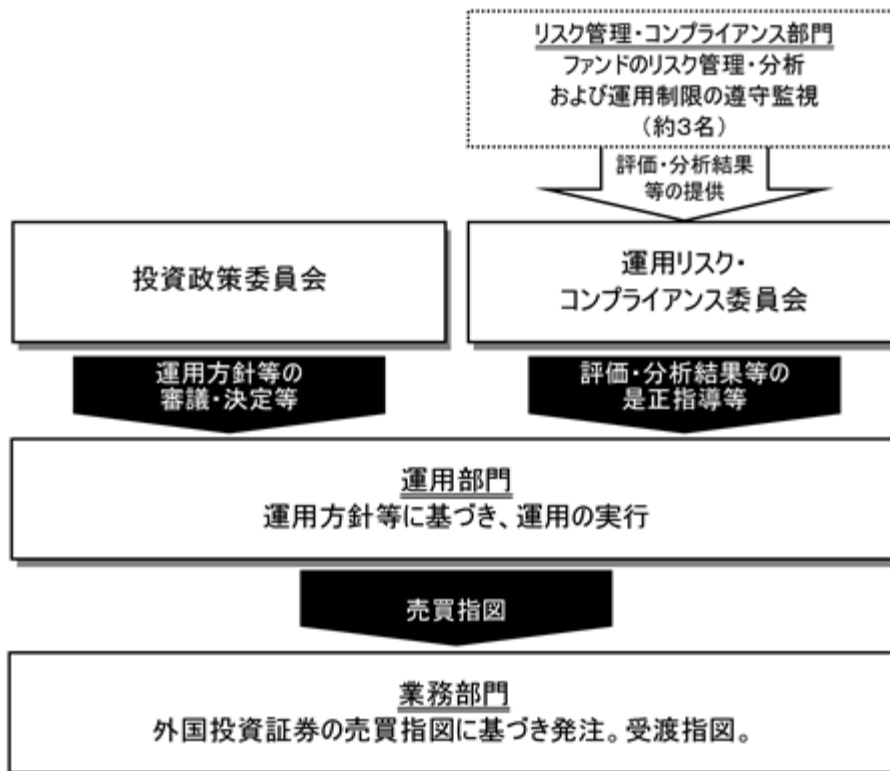
指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

コール・ローン

手形割引市場において売買される手形

金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利

## (3) 【運用体制】



## 運用体制に関する社内規程等

ファンドの運用に関する社内規程として、ポートフォリオ・マネジャーが遵守すべき服務規程を設け、ポートフォリオ・マネジャーの適正な行動基準および禁止行為を規定し、法令遵守、顧客の保護、取引の公正を図っています。また、実際の運用の指図においては、有価証券などの売買執行基準およびその遵守手続きなどに関して取扱い基準を設けることにより、法令遵守の徹底を図るとともに、利益相反となるインサイダー取引等を防止し、かつ売買執行においては最良執行に努めています。

## 関係法人に関する管理体制

受託会社：委託会社の社内ガイドラインに基づき、委託する業務の明確化および外部委託先の選定に係り適正な業務執行能力・信用力等を評価します。委託会社は、システム・ダウン、顧客情報の漏洩、緊急時対応等を含む内部統制状況を定期的に監視しています。

\* 当ファンドの運用体制等は本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## (4) 【分配方針】

## a. 収益分配時期

## &lt; 毎月決算型 &gt;

毎決算時（原則として毎月20日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づいて分配を行います。ただし、基準価額の水準等を勘案して、収益分配を行わない場合があります。

## &lt; 年2回決算型 &gt;

毎決算時（原則として6月20日および12月20日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づいて分配を行います。ただし、基準価額の水準等を勘案して、収益分配を行わない場合があります。

## b. 収益分配方針

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

収益分配金額は、上記の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

## c. 収益の分配方式

信託財産から生ずる毎計算期間終了日における利益は、次の方法により処理します。

イ. 配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（「配当等収益」といいます。）は、諸経費、監査費用（消費税等相当額込）ならびに信託報酬（消費税等相当額込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。

ロ. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（「売買益」といいます。）は、諸経費、監査費用（消費税等相当額込）ならびに信託報酬（消費税等相当額込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。

毎計算期間終了日において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

## d. 分配金の支払い

「一般コース」を申込みの場合は、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。

「自動けいぞく投資コース」を申込みの場合は、分配金は税引き後無手数料で再投資されません。

分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

## 収益分配金に関する留意事項

- ◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が  
支払われるイメージ

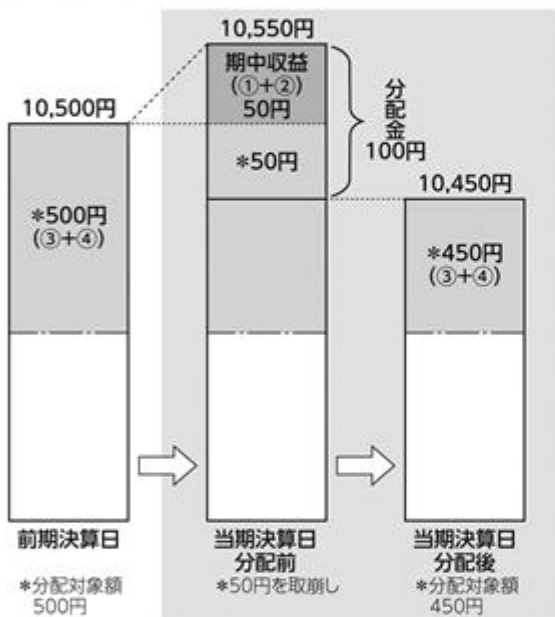


- ◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

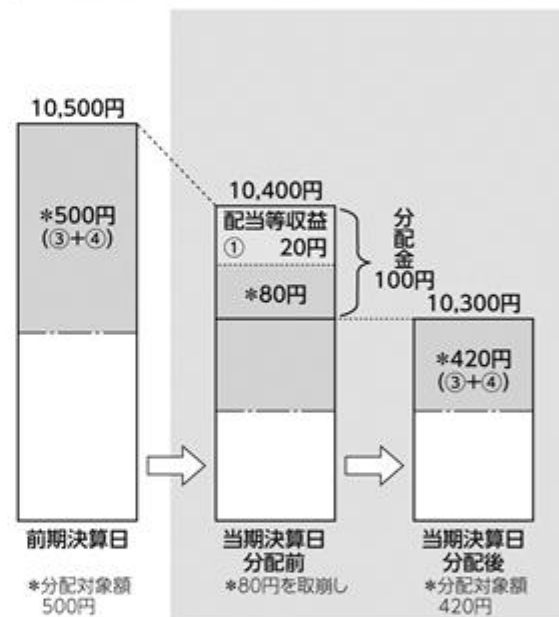
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

### (計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

#### (前期決算日から基準価額が上昇した場合)



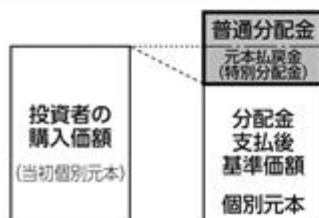
#### (前期決算日から基準価額が下落した場合)



※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。  
 分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。  
 収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の投資者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

- ◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

#### (分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

#### (分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
 元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

## (5) 【投資制限】

以下に記載の a . および b . については、添付書類の当ファンドの信託約款から抜粋してあります。

## a . 信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

債券への直接投資は行いません。

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の投資信託証券(ファンド・オブ・ファンズにのみ取得されることを目的とする投資信託証券は除きます。)への投資割合は信託財産の純資産総額の50%以下とします。

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

## b . 信託約款上のその他の投資制限

外国為替予約取引の指図

委託会社は、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

資金の借入れ

イ . 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

ロ . 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までまたは解約代金入金日までもしくは償還金の入金日までが5営業日以内である場合の期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金または解約代金もしくは償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内とします。

ハ . 収益分配金の再投資に係る借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ . 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

デリバティブ取引等に係る投資制限

デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会の規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

## c . その他の法令上の投資制限

(法令は本書提出日現在のものであり、今後改正される場合があります。)

## イ . 同一法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託会社指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。)が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

## ロ . デリバティブ取引に係る投資制限

(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

### 3【投資リスク】

当ファンドは、値動きのある資産に投資しますので、基準価額は変動します。

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。

当ファンドは外国投資証券を投資対象として運用を行うため、以下に掲げる投資対象とする外国投資証券にかかるリスクは、当ファンドに影響を及ぼします。

当ファンドのリスクおよび留意点は以下の通りです。ただし、下記に限定されるものではありません。

#### 投資対象である外国投資証券による外国債券に投資するリスク

##### 金利変動リスク

債券および債券先物の価格は基本的に市場の金利水準の変化に対応して変動します。金利が上昇する過程では債券の価格は下落（利回りは上昇）し、逆に金利低下の過程では価格は上昇（利回りは低下）することになります。

##### カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等による市場の混乱、取引に対する規制の新設等の場合には、投資額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。特にブラジルを含む新興国ではその傾向が顕著といえます。

##### ・経済状況の変化に伴うリスク

経済成長率、インフレ率、国際収支、外貨準備高等の各種経済指標によって象徴される経済状況の好転や悪化の度合いおよび速度が、先進国と比較して、一般に、大きくなる傾向があると考えられます。

##### ・流動性に関するリスク

新興国の証券市場は、先進諸国と比較して、市場規模や取引量が小さく、本来想定される投資価値とは乖離した価格水準による取引、もしくは価格の変動性が大きくなる傾向があると考えられます。

##### ・政治的・社会的な変化に伴うリスク

政治、社会不安、外交関係の悪化等により、証券市場の価格変動が大きくなる場合があることが想定されます。また、政府当局による海外からの投資規制や外国人投資家に対する追徴的な課税、自国外への送金規制、証券取引所の閉鎖や取引停止等の規制が突然導入されることも想定され、その場合には証券市場の価格変動が大きくなるばかりでなく、規制の内容等によっては、投資資金の回収が一時的に困難、または、不可能となることも想定されます。

##### ・制度、インフラストラクチャーに係るリスク

先進国と比較して、証券の決済・保管等に係る制度やインフラストラクチャーが未発達な場合や、証券の売買を行う仲介業者等の固有の事由等により、決済の遅延・不能等が発生する可能性も想定されます。

##### ・企業会計や情報開示等に係るリスク

一般に、企業会計や情報開示等に係る法制度や習慣等が、先進国とは異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分確保できないことがあります。

##### 信用リスク

債券の発行体は債券の保有者に対し、あらかじめ決められた期日に利金や償還金を支払う義務を負いますが、発行体が財政難や経営不振などの理由から、この義務を履行できなくなり（デフォルト）、当該債券の価格が下落することが考えられます。このように、発行体がデフォルトに陥り債券の元利金を回収することができなくなることで、発行体や社債の元利金の支払いを保証している保証人（該当する場合には）の信用状況の変化等により債券価格が下落するリスクなどをいいます。この信用リスクの一つの尺度としては、民間の格付機関による「信用格付」があり、一般的には信用格付の高い発行体ほど信用リスクが低いといえますが、信用格付も信用リスクの絶対的な指針ではありません。

##### 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となる場合があります。

### デリバティブ（先物取引等）取引のリスク

価格変動リスクを回避するため、デリバティブ取引を行うことがあります。デリバティブ取引には、ヘッジする商品とヘッジされる資産との間の相関関係や証拠金を積むことによるリスクなどが伴います。また、実際の価格変動が見通しと異なった場合、運用資産が損失を被る可能性があります。

### 為替変動リスク

組入外貨建資産に対して、原則として対円での為替ヘッジを行いません。外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。

### 市場の閉鎖等に伴うリスク

証券市場・外国為替市場等の金融市場は、世界的な経済事情の急変、その国における政策の変更、政変または天災地変等の諸事情により閉鎖されることがあり、混乱することがあります。これらにより、当ファンドの運用が影響を被り、基準価額が影響を受けることがあります。

### その他の留意点

#### ファンド・オブ・ファンズに関わる留意点

当ファンドが投資対象とする外国投資証券に、他のファンドが投資する場合には、当該外国投資証券の追加買付・解約に伴う資金変動が生じることがあり、市況動向や取引量等の状況によっては、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

#### 繰上償還に関わる留意点

当ファンドは、信託期間中であっても、残存口数が10億口を下回ることとなった場合等には、繰上償還することがあります。また、投資環境の変化等により、委託会社が申込期間を更新しないことや申込みを停止することがあります。

#### 投資方針の変更に関わる留意点

経済情勢や投資環境等の変化および投資効率等の観点から、投資対象および投資手法の変更を行う場合があります。

#### 収益分配方針に関わる留意点

当ファンドは、基準価額の水準、市場動向等によっては分配を行わないこともあります。また、基準価額が当初元本を下回る場合においても分配原資となる売買益、利子等収益があれば分配を行う場合があります。

#### 申込みの中止等の可能性に関わる留意点

委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（社会的基盤の機能不全や予測不能な事態の発生など）があるときは購入・換金の受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金の受付を取消することができます。

換金の受付を中止した場合には、受益者は当該受付け中止以前に行った当日の換金の申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付け中止を解除した後の最初の基準価額計算日に換金の申込みを受付けたものとします。

#### 法令・税制・会計等の変更の可能性に関わる留意点

当ファンドに適用される法令・税制・会計等は、変更になる可能性があります。

#### 目論見書の記載事項等の変更の可能性に関わる留意点

有価証券届出書の訂正届出書の提出等により、目論見書の記載事項等が変更になる可能性があります。

#### その他

- ・当ファンドは、クーリング・オフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。
- ・資金動向や市況動向等によっては、ファンドの投資方針に基づいた運用ができなくなる場合があります。
- ・コンピューター関係の不慮の出来事に起因する市場リスクや、システム上のリスクが生じる可能性があります。
- ・当ファンドは預貯金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構などの保護の対象ではありません。また、証券会社以外で購入された場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。



## リスク管理体制

委託会社では、取締役会が決定したリスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に運用リスク委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。

## 【参考情報】

### 毎月決算型

#### 当ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移



#### 当ファンドと他の代表的な資産クラスとの 騰落率の比較



### 年2回決算型

#### 当ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移



#### 当ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移



\*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

\*当ファンドの基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した分配金再投資基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

\*2010年7月～2015年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*各資産クラスの指数

- 日本株・・・ 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
- 先進国株・・・ MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
- 新興国株・・・ MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)
- 日本国債・・・ シティ日本国債インデックス
- 先進国債・・・ シティ世界国債インデックス(除く日本・円ベース)
- 新興国債・・・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド(円ベース)

注:海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

■「東証株価指数(TOPIX)」に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、「TOPIX」の算出もしくは公表の停止または「TOPIX」の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■「MSCIコクサイ・インデックス」および「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

■「シティ日本国債インデックス」および「シティ世界国債インデックス(除く日本・円ベース)」は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

■「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド(円ベース)」とは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc.に帰属します。



## 4【手数料等及び税金】

## (1)【申込手数料】

購入時に、購入申込受付日の翌営業日の基準価額に対し3.78%（税抜3.5%）以内で販売会社が独自に定める購入時手数料をお支払いいただきます。

詳しくは販売会社にお問合わせください。

\*商品及び関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価です。

## (2)【換金（解約）手数料】

かかりません。

## (3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、以下の率を乗じて得た額とします。

\*運用管理費用（信託報酬）の総額：日々のファンドの純資産総額に信託報酬率を乗じて得た額です。

時期	項目	費用・税金
毎日	信託報酬	純資産総額に対して年率1.188%（税抜1.10%） 配分（税抜）委託会社 年率0.35% 販売会社 年率0.7% 受託会社 年率0.05%  （投資対象とする外国投資証券の運用報酬等（年率0.5%）を含めると、報酬の合計は年率約1.688%（税抜1.6%）です。）

信託報酬の総額は、毎計算期間終了日または信託終了のとき信託財産中から支払います。

\*委託会社に対する報酬は、委託した資金の運用の対価です。

販売会社に対する報酬は、情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価です。

受託会社に対する報酬は、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。

## (4)【その他の手数料等】

時期	項目	費用・税金
毎日	報酬	投資対象とする外国投資証券（アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド）には、運用報酬率約0.5%がかかります。 信託財産の運用、管理等の対価です。
	信託報酬および運用報酬等の合計：	信託財産の純資産総額に対して、年率1.688%（税抜1.6%）程度
	監査費用	信託財産の財務諸表の監査に要する費用(上限年間162万円(税抜150万円)) 監査法人に支払うファンドの監査に係る費用です。
随時	その他の費用・手数料	・組入る有価証券等の売買の際に発生する手数料（消費税等相当額込）、デリバティブ取引等に要する費用等 ・外国における保管銀行等に支払う有価証券等の保管等に要する費用 ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息等 ・信託財産の一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合に発生する当該借入金の利息 ・外国投資証券の監査に係る費用および弁護士に支払う費用等 （その他の費用には、投資対象とする外国投資証券にかかるものを含まず。）

監査費用は、毎計算期間終了日または信託終了のとき信託財産中から支払います。

監査費用および運用報酬等は、将来的に変更される場合があります。

ブラジル国内での債券投資については、非居住者に対して金融取引税が課税される場合があります。ブラジルにおける当該関係法令等の改正により、この取扱いが変更されることがあります。

購入から換金または償還までの間にご負担いただく費用と税金の合計額は、運用状況、資産規模および保有期間等により異なるため、事前に当該費用の金額、その上限額、計算方法を記載することはできません。

## (5)【課税上の取扱い】

受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

## a. 個人の受益者に対する課税

## 収益分配金に対する課税

普通分配金については、配当所得として課税され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行い、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

## 解約金または償還金に対する課税

換金（解約）時または償還時の差益（換金（解約）時または償還時の価額から購入したときの費用（購入時手数料（税込）を含みます。）を控除した利益）については、譲渡所得として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。特定口座（源泉徴収あり）の利用も可能です。

## 損益通算について

換金（解約）時または償還時の損失については、確定申告により上場株式等の譲渡益と相殺することができ、申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得との損益通算も可能となります。

また、換金（解約）時または償還時の差益については、他の上場株式等の譲渡損との相殺が可能となります。

なお、平成28年1月1日以降、上記の損益通算の対象範囲に、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得および譲渡所得等が追加されます。

特定口座にかかる課税上の取扱いにつきましては、販売会社にお問合わせ下さい。

## 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円（平成28年1月1日以降、年間120万円）の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

平成28年1月から年間80万円の範囲で20歳未満の方を対象とした非課税制度「ジュニアNISA」の口座開設の申込受付が開始され、同年4月より投資可能となる予定です。

## b. 法人の受益者に対する課税

普通分配金ならびに換金（解約）時または償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の特別徴収はありません。

収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。益金不算入制度は適用されません。

## c. 個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（購入時手数料（消費税等相当額込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回購入した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

同一ファンドを複数の販売会社で購入する場合、同一販売会社であっても複数口座で同一ファンドを購入する場合、または「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースを購入する場合は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

## d. 収益分配金について

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。受益者が収益分配金を受取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額に対して、以下のとおりとなります。

- ・当該受益者の個別元本と同額または上回っている場合には、収益分配金の全額が普通分配金となります。
- ・当該受益者の個別元本を下回っている場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

\* 上記は平成27年6月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務の専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】（平成27年6月末日現在）

## &lt;毎月決算型&gt;

資産の種類		時価合計(円)	投資比率(%)
投資証券	ルクセンブルグ	1,279,168,030	98.61
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		18,087,143	1.39
合計(純資産総額)		1,297,255,173	100.00

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。以下同じ。

## &lt;年2回決算型&gt;

資産の種類		時価合計(円)	投資比率(%)
投資証券	ルクセンブルグ	94,499,746	98.01
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1,917,633	1.99
合計(純資産総額)		96,417,379	100.00

## (2)【投資資産】（平成27年6月末日現在）

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## &lt;毎月決算型&gt;

国/地域	種類	銘柄名	数量*	帳簿価額単価 (円)*	帳簿価額金額 (円)	評価額単価 (円)*	評価額金額 (円)	投資比率 (%)
ルクセンブルグ	投資証券	アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド	22,271,338	58.26	1,297,750,865	57.37	1,277,775,702	98.50
ルクセンブルグ	投資証券	アバディーン・リクイディティ・ファンド (ルクス)米ドル	10	139,227.40	1,392,274	139,232.90	1,392,328	0.11

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価金額の比率です。以下同じ。

\* 「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」の帳簿価額単価および評価額単価の記載を1,000分の1に変更したことに伴い、数量の記載は1,000倍表示にしております。

## (種類別投資比率)

種類	投資比率(%)
投資証券	98.61
合計	98.61

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する種類の評価金額の比率です。以下同じ。

## &lt;年2回決算型&gt;

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額単価 (円)	帳簿価額金額 (円)	評価額単価 (円)	評価額金額 (円)	投資比率 (%)
ルクセンブルグ	投資証券	アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド	1,622,841	58.27	94,579,173	57.37	93,107,418	96.57
ルクセンブルグ	投資証券	アバディーン・リクイディティ・ファンド (ルクス)米ドル	10	139,227.40	1,392,274	139,232.90	1,392,328	1.44

## (種類別投資比率)

種類	投資比率(%)
投資証券	98.01
合計	98.01

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

平成27年6月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間終了日の純資産の推移は次の通りです。

< 毎月決算型 >

	純資産総額（百万円）		1口当たりの純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1 特定期間末(平成20年12月22日)	110	111	0.9492	0.9582
第2 特定期間末(平成21年6月22日)	376	379	1.1899	1.1999
第3 特定期間末(平成21年12月21日)	584	592	1.1841	1.1991
第4 特定期間末(平成22年6月21日)	2,462	2,495	1.1254	1.1404
第5 特定期間末(平成22年12月20日)	4,302	4,365	1.0239	1.0389
第6 特定期間末(平成23年6月20日)	5,753	5,840	0.9885	1.0035
第7 特定期間末(平成23年12月20日)	5,399	5,502	0.7836	0.7986
第8 特定期間末(平成24年6月20日)	4,818	4,887	0.7042	0.7142
第9 特定期間末(平成24年12月20日)	4,727	4,795	0.7022	0.7122
第10 特定期間末(平成25年6月20日)	3,629	3,654	0.7319	0.7369
第11 特定期間末(平成25年12月20日)	3,034	3,055	0.7271	0.7321
第12 特定期間末(平成26年6月20日)	2,511	2,528	0.7564	0.7614
第13 特定期間末(平成26年12月22日)	1,894	1,907	0.7354	0.7404
第14 特定期間末(平成27年6月22日)	1,319	1,329	0.6542	0.6592
平成26年6月末日	2,493	-	0.7646	-
平成26年7月末日	2,335	-	0.7592	-
平成26年8月末日	2,221	-	0.7646	-
平成26年9月末日	2,056	-	0.7361	-
平成26年10月末日	2,020	-	0.7439	-
平成26年11月末日	2,056	-	0.7726	-
平成26年12月末日	1,882	-	0.7334	-
平成27年1月末日	1,850	-	0.7470	-
平成27年2月末日	1,607	-	0.6800	-
平成27年3月末日	1,377	-	0.6088	-
平成27年4月末日	1,425	-	0.6669	-
平成27年5月末日	1,344	-	0.6448	-
平成27年6月末日	1,297	-	0.6440	-

## &lt;年2回決算型&gt;

	純資産総額(百万円)		1口当たりの純資産額(円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
1期(平成20年12月22日)	19	19	0.9439	0.9439
2期(平成21年6月22日)	37	37	1.2484	1.2584
3期(平成21年12月21日)	44	48	1.2128	1.3128
4期(平成22年6月21日)	69	75	1.1424	1.2424
5期(平成22年12月20日)	106	116	1.0342	1.1342
6期(平成23年6月20日)	143	158	0.9989	1.0989
7期(平成23年12月20日)	145	164	0.7770	0.8770
8期(平成24年6月20日)	178	182	0.7337	0.7537
9期(平成24年12月20日)	161	166	0.7776	0.7976
10期(平成25年6月20日)	157	160	0.8209	0.8409
11期(平成25年12月20日)	150	154	0.8298	0.8498
12期(平成26年6月20日)	138	141	0.8784	0.8984
13期(平成26年12月22日)	104	107	0.8702	0.8902
14期(平成27年6月22日)	97	100	0.7903	0.8103
平成26年6月末日	135	-	0.8878	-
平成26年7月末日	118	-	0.8876	-
平成26年8月末日	113	-	0.8998	-
平成26年9月末日	106	-	0.8726	-
平成26年10月末日	108	-	0.8879	-
平成26年11月末日	111	-	0.9294	-
平成26年12月末日	105	-	0.8680	-
平成27年1月末日	104	-	0.8897	-
平成27年2月末日	90	-	0.8167	-
平成27年3月末日	82	-	0.7375	-
平成27年4月末日	101	-	0.8132	-
平成27年5月末日	98	-	0.7930	-
平成27年6月末日	96	-	0.7780	-

## 【分配の推移】

&lt; 毎月決算型 &gt;

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間 (平成20年11月19日～平成20年12月22日)	0.0090
第2特定期間 (平成20年12月23日～平成21年6月22日)	0.0560
第3特定期間 (平成21年6月23日～平成21年12月21日)	0.0750
第4特定期間 (平成21年12月22日～平成22年6月21日)	0.0900
第5特定期間 (平成22年6月22日～平成22年12月20日)	0.0900
第6特定期間 (平成22年12月21日～平成23年6月20日)	0.0900
第7特定期間 (平成23年6月21日～平成23年12月20日)	0.0900
第8特定期間 (平成23年12月21日～平成24年6月20日)	0.0600
第9特定期間 (平成24年6月21日～平成24年12月20日)	0.0600
第10特定期間 (平成24年12月21日～平成25年6月20日)	0.0300
第11特定期間 (平成25年6月21日～平成25年12月20日)	0.0300
第12特定期間 (平成25年12月21日～平成26年6月20日)	0.0300
第13特定期間 (平成26年6月21日～平成26年12月22日)	0.0300
第14特定期間 (平成26年12月23日～平成27年6月22日)	0.0300

&lt; 年2回決算型 &gt;

	1口当たり分配金(円)
1期	0.0000
2期	0.0100
3期	0.1000
4期	0.1000
5期	0.1000
6期	0.1000
7期	0.1000
8期	0.0200
9期	0.0200
10期	0.0200
11期	0.0200
12期	0.0200
13期	0.0200
14期	0.0200

【収益率の推移】  
< 毎月決算型 >

	収益率(%)
第1特定期間 (平成20年11月19日～平成20年12月22日)	4.2
第2特定期間 (平成20年12月23日～平成21年6月22日)	31.3
第3特定期間 (平成21年6月23日～平成21年12月21日)	5.8
第4特定期間 (平成21年12月22日～平成22年6月21日)	2.6
第5特定期間 (平成22年6月22日～平成22年12月20日)	1.0
第6特定期間 (平成22年12月21日～平成23年6月20日)	5.3
第7特定期間 (平成23年6月21日～平成23年12月20日)	11.6
第8特定期間 (平成23年12月21日～平成24年6月20日)	2.5
第9特定期間 (平成24年6月21日～平成24年12月20日)	8.2
第10特定期間 (平成24年12月21日～平成25年6月20日)	8.5
第11特定期間 (平成25年6月21日～平成25年12月20日)	3.4
第12特定期間 (平成25年12月21日～平成26年6月20日)	8.2
第13特定期間 (平成26年6月21日～平成26年12月22日)	1.2
第14特定期間 (平成26年12月23日～平成27年6月22日)	7.0

< 年2回決算型 >

	収益率(%)
1期	5.6
2期	33.3
3期	5.2
4期	2.4
5期	0.7
6期	6.3
7期	12.2
8期	3.0
9期	8.7
10期	8.1
11期	3.5
12期	8.3
13期	1.3
14期	6.9

## (4) 【設定及び解約の実績】

&lt; 毎月決算型 &gt;

(単位：口)

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1特定期間 (平成20年11月19日～平成20年12月22日)	115,912,180	-	115,912,180
第2特定期間 (平成20年12月23日～平成21年6月22日)	222,352,199	21,953,134	316,311,245
第3特定期間 (平成21年6月23日～平成21年12月21日)	238,700,903	61,243,130	493,769,018
第4特定期間 (平成21年12月22日～平成22年6月21日)	1,712,130,090	17,622,656	2,188,276,452
第5特定期間 (平成22年6月22日～平成22年12月20日)	2,105,496,236	91,942,138	4,201,830,550
第6特定期間 (平成22年12月21日～平成23年6月20日)	2,169,068,108	550,621,458	5,820,277,200
第7特定期間 (平成23年6月21日～平成23年12月20日)	1,454,787,246	384,297,892	6,890,766,554
第8特定期間 (平成23年12月21日～平成24年6月20日)	772,027,294	820,139,625	6,842,654,223
第9特定期間 (平成24年6月21日～平成24年12月20日)	291,205,831	400,722,258	6,733,137,796
第10特定期間 (平成24年12月21日～平成25年6月20日)	256,071,929	2,030,213,258	4,958,996,467
第11特定期間 (平成25年6月21日～平成25年12月20日)	35,730,020	821,087,406	4,173,639,081
第12特定期間 (平成25年12月21日～平成26年6月20日)	40,105,392	893,174,098	3,320,570,375
第13特定期間 (平成26年6月21日～平成26年12月22日)	33,532,415	777,786,314	2,576,316,476
第14特定期間 (平成26年12月23日～平成27年6月22日)	14,339,433	573,873,875	2,016,782,034

(注1) 1期の設定口数には、当初申込期間中の設定口数が含まれます。以下同じ。

(注2) 設定口数、解約口数はすべて本邦内におけるものです。以下同じ。

&lt; 年2回決算型 &gt;

(単位：口)

	設定口数	解約口数	発行済口数
1期	20,576,271	-	20,576,271
2期	11,216,144	1,644,395	30,148,020
3期	8,796,632	2,085,248	36,859,404
4期	28,885,446	5,085,539	60,659,311
5期	42,906,200	502,697	103,062,814
6期	55,613,999	14,590,706	144,086,107
7期	55,047,494	11,608,278	187,525,323
8期	63,510,769	8,421,617	242,614,475
9期	8,881,039	43,265,855	208,229,659
10期	5,418,824	22,319,958	191,328,525
11期	9,740,677	19,443,813	181,625,389
12期	3,620,254	28,096,339	157,149,304
13期	4,899,099	41,441,961	120,606,442
14期	17,548,923	14,697,825	123,457,540



## &lt; 参考情報 &gt;

## 運用実績

2015年6月末日現在

## 基準価額・純資産の推移



※基準価額(分配金再投資)とは、分配金(税引前)を分配時に再投資したとみなした価額です。

## 分配金の推移

基準価額	純資産総額
6,440円	13.0億円

決算日	分配金
第75期 2015年2月	50円
第76期 2015年3月	50円
第77期 2015年4月	50円
第78期 2015年5月	50円
第79期 2015年6月	50円
高近1年間累計	600円
設定来累計	7,700円

基準価額	純資産総額
7,780円	1.0億円

決算日	分配金
第10期 2013年6月	200円
第11期 2013年12月	200円
第12期 2014年6月	200円
第13期 2014年12月	200円
第14期 2015年6月	200円
設定来累計	6,500円

※上記分配金は一万口当たり、税引前です。

## 主要な資産の状況

ファンド組入状況	投資比率	
	<毎月決算型>	<年2回決算型>
アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド	98.50%	96.57%
アバディーン・リクイディティ・ファンド(ルクス)米ドル	0.11%	1.44%
現預金	1.39%	1.99%
合計	100.00%	100.00%

銘柄名	種類	種別	償還日	実質投資比率	
				<毎月決算型>	<年2回決算型>
1 Brazil (Federal Republic of) (Index Linked) 6% 15.08.2016	ブラジル国債	インフレ連動債	2016/08/15	27.3%	26.8%
2 Brazil (Federal Republic of) 10% 01.01.2017	ブラジル国債	固定金利付債	2017/01/01	20.0%	19.6%
3 Brazil (Federal Republic of) (Index Linked) 6% 15.05.2017	ブラジル国債	インフレ連動債	2017/05/15	16.2%	15.8%

※当ファンドの主要投資対象である「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」に関するものです。

※実質投資比率は、「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」の投資比率に基づき算出した実質ベースの数値です。

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



※当ファンドにベンチマークはありません。

※当ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資して算出しております。

※2008年は設定時から同年12月まで、2015年は年初から6月末までの収益率を表示しております。

・上記のデータは過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。  
 ・最新の運用実績の一部は、委託会社のホームページで閲覧できます。

## 第2【管理及び運営】

## 1【申込（販売）手続等】

- (1) 申込時間  
午後3時までに購入申込みが行われ、かつ当該購入申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。
- (2) 購入申込不可日  
販売会社の営業日であっても、以下のいずれかに該当する場合には、購入申込みの受付は行いません。  
・サンパウロの証券取引所または銀行の休業日  
・ルクセンブルグの銀行の休業日、およびその前営業日  
ルクセンブルグの銀行の休業日が土曜日の場合を除きます。
- 詳しくは販売会社にお問合わせください。
- (3) 申込コース  
分配金の受取方法により、申込みには以下の2つのコースがあります。  
一般コース：収益の分配時に分配金を受取るコースです。  
自動けいぞく投資コース：分配金が税引き後無手数料で再投資されるコースです。  
どちらかのコースをお選びください。  
また、「自動けいぞく投資コース」を選択した場合は、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約を締結するものとします。
- (4) 申込単位  
販売会社が定める単位とします。  
ただし、「自動けいぞく投資コース」における収益分配金の再投資は、1口単位とします。
- (5) 申込価額  
購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額は毎営業日計算し、原則として翌日の日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄の〔アバディーン〕に、次の略称で掲載されます。

ブラジル国債リアル債・ファンド（毎月決算型）	ドリーム毎月
ブラジル国債リアル債・ファンド（年2回決算型）	ドリーム年2

〔照会先〕 アバディーン投信投資顧問株式会社  
お問い合わせ窓口 03-4578-2251  
(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)  
インターネット・ホームページ <http://www.aberdeen-asset.co.jp/>

- (6) 購入代金支払日  
販売会社の定める日までに購入代金を販売会社にお支払いください。
- (7) 購入申込時の振替口座簿について  
購入申込者は販売会社に、購入申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当該ファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該購入代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。
- (8) 申込の中止  
委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の購入申込みを中止することおよびすでに受付けた購入申込みを取り消すことができます。  
また、信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の購入申込みの受付を制限または停止することができます。
- (9) 申込取扱場所

申込期間中、販売会社にて申込を取扱います。販売会社によっては、どちらか一方のファンドを取扱わない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

販売会社については、前記「(5)申込価額」の照会先までお問い合わせください。

## 2【換金（解約）手続等】

- (1) 申込時間  
午後3時までに換金申込みが行われ、かつ当該換金申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。
- (2) 換金申込不可日  
販売会社の営業日であっても、以下のいずれかに該当する場合には、換金申込みの受付は行いません。
  - ・サンパウロの証券取引所または銀行の休業日
  - ・ルクセンブルグの銀行の休業日、およびその前営業日  
ルクセンブルグの銀行の休業日が土曜日の場合を除きます。  
詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- (3) 換金単位  
販売会社が定める単位とします。
- (4) 換金価額  
換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
- (5) 換金における制限  
信託財産の資金管理を円滑に行うため、ファンドの残高減少、市場の流動性の状況等によっては、委託会社の判断により、一定の金額を超える一部解約の金額に制限を設ける場合や一定の金額を超える一部解約の実行の請求の受付時間に制限を設ける場合があります。
- (6) 換金代金支払日  
原則として換金申込受付日より6営業日目から販売会社において支払います。
- (7) 換金時の振替口座簿について  
換金申込みを行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の換金申込みに係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- (8) 換金の中止  
委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、換金申込みを中止することおよびすでに受付けた換金申込みを取り消すことができます。  
換金申込みの受付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行った当日の換金申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金申込みを撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金申込みを受付けたものとして、算出した価額とします。

## 3【資産管理等の概要】

### (1)【資産の評価】

- a. 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金・その他の資産をいいます。）の円換算については、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、外国予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。投資対象である外国投資証券については計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。
- b. 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。
- c. 収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金<sup>\*1</sup>は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等<sup>\*2</sup>に応じて計算されるものとします。

- \* 1 「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加設定のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、
- \* 2 「受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、
- d. 基準価額は毎営業日計算し、原則として、翌日の日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄の〔アバディーン〕に、次の略称で掲載されます。

ブラジル国債リアル債・ファンド（毎月決算型）	ドリーム毎月
ブラジル国債リアル債・ファンド（年2回決算型）	ドリーム年2

〔照会先〕 アバディーン投信投資顧問株式会社  
お問い合わせ窓口 03-4578-2251  
(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)  
インターネット・ホームページ <http://www.aberdeen-asset.co.jp/>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

平成20年11月19日から平成30年12月20日までとします。

ただし、「(5) その他 a. 償還条件」に該当する場合は、信託契約を解約し信託を終了させることができます。

(4) 【計算期間】

< 毎月決算型 >

原則として、毎月21日から翌月20日までとします。

< 年2回決算型 >

原則として、毎年6月21日から12月20日まで、および12月21日から翌年6月20日までとします。

計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のときは、計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間終了日は、信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】

a. 償還条件

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が10億口を下回った場合またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくは運用体制等の変更等のやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、の手続きにしたがって、信託を終了させることができます。

委託会社は、前記 について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

前記 の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

前記 の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

前記 、 の規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、後記の「b. 信託約款の変更等」において信託約款の変更をしないこととした場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託約款を解約し、信託を終了させます。

#### b. 信託約款の変更等

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、信託約款は本規定に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

委託会社は、前記の事項（変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な信託約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。前記の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

前記の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

前記からまでの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

前各項の規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

#### c. 運用報告書

- 委託会社は、毎年6月、12月に終了する計算期間終了時および償還時に運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書を作成し、受益者に対し、販売会社を通じて交付します。
- 委託会社は、運用報告書（全体版）を作成し、委託会社のホームページに掲載します。

インターネット・ホームページ：<http://www.aberdeen-asset.co.jp/>

上記にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

#### d. 関係法人との契約の更新等に関する手続

委託会社が販売会社に委託するファンドの募集・販売に関する業務の内容、一部解約に関する事務の内容、およびこれらに関する手続き等についての契約の有効期間は1年間とし、期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれからも別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長され、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

#### e. 委託会社の事業譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

## 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

#### a. 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間終了日後、1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として計算期間終了日から起算して5営業日目)までに毎計算期間終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前に設定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者とします。)に支払いを開始します。収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

上記にかかわらず、自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が販売会社に支払われます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

b. 償還金に対する請求権

受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として信託終了日から起算して5営業日目)までに信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者とします。)に支払いを開始します。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

c. 一部解約(換金)請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行を請求する権利を有します。

d. 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

e. 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所      2. 他の受益者が有する受益権の内容

f. 反対者の買取請求の不適用

委託会社が一部解約の請求を受け付けた場合にこの信託契約の一部を解約する委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合に、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者であっても、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することはできません。



### 第3【ファンドの経理状況】

- (1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しています。
- (2)ブラジル国債リアル債・ファンド（毎月決算型）の計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しています。  
ブラジル国債リアル債・ファンド（年2回決算型）の計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しています。
- (3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、ブラジル国債リアル債・ファンド（毎月決算型）の第14特定期間（平成26年12月23日から平成27年6月22日まで）の財務諸表について、ならびにブラジル国債リアル債・ファンド（年2回決算型）の第14計算期間（平成26年12月23日から平成27年6月22日まで）の財務諸表について、PwCあらた監査法人による監査を受けています。

## 1【財務諸表】

## 【ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）】

## （1）【貸借対照表】

（単位：円）

	第13特定期間 （平成26年12月22日現在）	第14特定期間 （平成27年6月22日現在）
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	45,215,013	26,017,152
投資証券	1,871,891,174	1,310,281,686
未収入金	-	11,000,000
未収利息	12	7
流動資産合計	1,917,106,199	1,347,298,845
資産合計	1,917,106,199	1,347,298,845
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	12,881,582	10,083,910
未払解約金	7,179,415	16,156,695
未払受託者報酬	93,772	65,896
未払委託者報酬	1,969,164	1,383,778
その他未払費用	324,000	324,000
流動負債合計	22,447,933	28,014,279
負債合計	22,447,933	28,014,279
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	2,576,316,476	2,016,782,034
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	681,658,210	697,497,468
（分配準備積立金）	-	-
元本等合計	1,894,658,266	1,319,284,566
純資産合計	1,894,658,266	1,319,284,566
負債純資産合計	1,917,106,199	1,347,298,845



## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第13特定期間 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	93,915,342	67,809,455
受取利息	4,060	1,164
有価証券売買等損益	51,865,317	190,645,756
為替差損益	199,653	36,268
営業収益合計	42,253,738	122,798,869
<b>営業費用</b>		
受託者報酬	592,874	418,970
委託者報酬	12,450,269	8,798,263
その他費用	324,000	324,000
営業費用合計	13,367,143	9,541,233
営業利益又は営業損失( )	28,886,595	132,340,102
経常利益又は経常損失( )	28,886,595	132,340,102
当期純利益又は当期純損失( )	28,886,595	132,340,102
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	2,405,007	134,007
期首剰余金又は期首欠損金( )	808,908,227	681,658,210
剰余金増加額又は欠損金減少額	193,385,872	189,053,984
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	193,385,872	189,053,984
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	7,834,579	5,011,536
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	7,834,579	5,011,536
分配金	84,782,864	67,675,611
期末剰余金又は期末欠損金( )	681,658,210	697,497,468

## (3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって評価するものとします。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。 特定期間 当ファンドの計算期間は原則として、毎月21日から20日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとしたしますので、当特定期間は平成26年12月23日から平成27年6月22日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

期別	第13特定期間 平成26年12月22日現在	第14特定期間 平成27年6月22日現在
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中一部解約元本額		
期首元本額	3,320,570,375円	2,576,316,476円
期中追加設定元本額	33,532,415円	14,339,433円
期中一部解約元本額	777,786,314円	573,873,875円
2. 特定期間の末日における受益権の総数	2,576,316,476口	2,016,782,034口
3. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	681,658,210円	697,497,468円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第13特定期間 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
分配金の計算過程 (自平成26年6月21日 至平成26年7月22日)	分配金の計算過程 (自平成26年12月23日 至平成27年1月20日)
費用控除後の配当等収益額 47,183,474円	費用控除後の配当等収益額 36,317,955円
費用控除後・繰越欠損金補填後 0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 0円
の有価証券等損益額	の有価証券等損益額
収益調整金額 155,413,651円	収益調整金額 123,329,618円
分配準備積立金額 998,749円	分配準備積立金額 0円
当ファンドの分配対象収益額 203,595,874円	当ファンドの分配対象収益額 159,647,573円
当ファンドの期末残存口数 3,145,597,646口	当ファンドの期末残存口数 2,497,004,150口
10,000口当たり収益分配対象額 647円	10,000口当たり収益分配対象額 639円
10,000口当たり分配金額 50円	10,000口当たり分配金額 50円
収益分配金金額 15,727,988円	収益分配金金額 12,485,020円

第13特定期間 自 平成26年 6月21日 至 平成26年12月22日		第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年 6月22日	
( 自平成26年 7月23日 至平成26年 8月20日 )		( 自平成27年 1月21日 至平成27年 2月20日 )	
費用控除後の配当等収益額	541円	費用控除後の配当等収益額	0円
費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円
収益調整金額	148,139,715円	収益調整金額	119,707,608円
分配準備積立金額	30,874,908円	分配準備積立金額	23,119,502円
当ファンドの分配対象収益額	179,015,164円	当ファンドの分配対象収益額	142,827,110円
当ファンドの期末残存口数	2,997,360,273口	当ファンドの期末残存口数	2,423,443,402口
10,000口当たり収益分配対象額	597円	10,000口当たり収益分配対象額	589円
10,000口当たり分配金額	50円	10,000口当たり分配金額	50円
収益分配金金額	14,986,801円	収益分配金金額	12,117,217円
( 自平成26年 8月21日 至平成26年 9月22日 )		( 自平成27年 2月21日 至平成27年 3月20日 )	
費用控除後の配当等収益額	1,143円	費用控除後の配当等収益額	0円
費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円
収益調整金額	139,851,198円	収益調整金額	113,624,762円
分配準備積立金額	14,871,843円	分配準備積立金額	10,425,961円
当ファンドの分配対象収益額	154,724,184円	当ファンドの分配対象収益額	124,050,723円
当ファンドの期末残存口数	2,827,316,281口	当ファンドの期末残存口数	2,299,978,238口
10,000口当たり収益分配対象額	547円	10,000口当たり収益分配対象額	539円
10,000口当たり分配金額	50円	10,000口当たり分配金額	50円
収益分配金金額	14,136,581円	収益分配金金額	11,499,891円
( 自平成26年 9月23日 至平成26年10月20日 )		( 自平成27年 3月21日 至平成27年 4月20日 )	
費用控除後の配当等収益額	40,085,865円	費用控除後の配当等収益額	27,546,304円
費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円
収益調整金額	135,209,225円	収益調整金額	107,482,202円
分配準備積立金額	711,650円	分配準備積立金額	0円
当ファンドの分配対象収益額	176,006,740円	当ファンドの分配対象収益額	135,028,506円
当ファンドの期末残存口数	2,733,421,576口	当ファンドの期末残存口数	2,195,894,152口
10,000口当たり収益分配対象額	643円	10,000口当たり収益分配対象額	614円
10,000口当たり分配金額	50円	10,000口当たり分配金額	50円
収益分配金金額	13,667,107円	収益分配金金額	10,979,470円
( 自平成26年10月21日 至平成26年11月20日 )		( 自平成27年 4月21日 至平成27年 5月20日 )	
費用控除後の配当等収益額	351円	費用控除後の配当等収益額	143円
費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券等損益額	0円
収益調整金額	132,416,775円	収益調整金額	102,899,122円
分配準備積立金額	26,545,839円	分配準備積立金額	15,846,809円
当ファンドの分配対象収益額	158,962,965円	当ファンドの分配対象収益額	118,746,074円
当ファンドの期末残存口数	2,676,561,048口	当ファンドの期末残存口数	2,102,020,619口
10,000口当たり収益分配対象額	593円	10,000口当たり収益分配対象額	564円
10,000口当たり分配金額	50円	10,000口当たり分配金額	50円
収益分配金金額	13,382,805円	収益分配金金額	10,510,103円

第13特定期間 自 平成26年 6月21日 至 平成26年12月22日		第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年 6月22日	
( 自平成26年11月21日 至平成26年12月22日 )		( 自平成27年 5月21日 至平成27年 6月22日 )	
費用控除後の配当等収益額	0円	費用控除後の配当等収益額	212円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	0円
収益調整金額	127,466,168円	収益調整金額	98,729,961円
分配準備積立金額	12,661,749円	分配準備積立金額	5,116,910円
当ファンドの分配対象収益額	140,127,917円	当ファンドの分配対象収益額	103,847,083円
当ファンドの期末残存口数	2,576,316,476口	当ファンドの期末残存口数	2,016,782,034口
10,000口当たり収益分配対象額	543円	10,000口当たり収益分配対象額	514円
10,000口当たり分配金額	50円	10,000口当たり分配金額	50円
収益分配金金額	12,881,582円	収益分配金金額	10,083,910円

( 金融商品に関する注記 )

金融商品の状況に関する事項

項目	第13特定期間 自 平成26年 6月21日 至 平成26年12月22日		第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年 6月22日	
	期別		期別	
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、金融商品を投資対象とし、信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき運用を行っております。		同左	
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドは、外国投資証券を主要投資対象として運用を行うため、当該外国投資証券にかかるリスクは、当ファンドに影響を及ぼします。投資対象とする金融商品は、価格変動、為替変動等に伴う市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。		同左	
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	委託会社では、取締役会が決定したリスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に運用リスク委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。		同左	

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	第13特定期間 平成26年12月22日現在	第14特定期間 平成27年6月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		貸借対照表計上額は原則として期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 売買目的有価証券 同左 (2) 有価証券以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券（売買目的有価証券を除く。）の決算日後の償還予定額		貸借対照表に計上している金銭債権はその全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

第13特定期間(平成26年12月22日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	10,630,481
合計	10,630,481

第14特定期間(平成27年6月22日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	13,837,870
合計	13,837,870

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第13特定期間 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14特定期間 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
該当事項はありません。	同左

## （ 1口当たり情報に関する注記）

第13特定期間 平成26年12月22日現在		第14特定期間 平成27年6月22日現在	
1口当たり純資産額	0.7354円	1口当たり純資産額	0.6542円
(1万口当たり純資産額	7,354円)	(1万口当たり純資産額	6,542円)

## （ 4 ）【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
日本円	投資証券	アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド	22,460,094	1,308,886,683	
日本円合計			22,460,094	1,308,886,683	
米ドル	投資証券	アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル	10	11,370.15	
米ドル合計			10	11,370.15 (1,395,003)	
合計				1,310,281,686 (1,395,003)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額（単位：円）であります。

(注2)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注4)当ファンドの投資対象は「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」のユニットのうち、クラスN 1です。

(注5)当ファンドの投資対象は「アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル」のユニットのうち、クラスZ 2です。

(注6)「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」につきましては、口数の記載を1,000倍で表示し、評価額単価を1,000分の1として評価額を算出しております。

## 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	投資証券 1銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【ブラジル国債レアル債・ファンド(年2回決算型)】

## (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	第13期 (平成26年12月22日現在)	第14期 (平成27年6月22日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
コール・ローン	4,840,663	4,686,325
投資証券	103,274,358	95,983,465
未収利息	1	1
流動資産合計	108,115,022	100,669,791
<b>資産合計</b>	108,115,022	100,669,791
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
未払収益分配金	2,412,128	2,469,150
未払受託者報酬	31,130	25,891
未払委託者報酬	653,610	543,676
その他未払費用	64,800	64,800
流動負債合計	3,161,668	3,103,517
<b>負債合計</b>	3,161,668	3,103,517
<b>純資産の部</b>		
<b>元本等</b>		
元本	120,606,442	123,457,540
<b>剰余金</b>		
期末剰余金又は期末欠損金( )	15,653,088	25,891,266
(分配準備積立金)	5,470,274	5,350,548
元本等合計	104,953,354	97,566,274
<b>純資産合計</b>	104,953,354	97,566,274
<b>負債純資産合計</b>	108,115,022	100,669,791

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第13期 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14期 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	4,862,671	3,885,601
受取利息	180	40
有価証券売買等損益	2,912,291	10,327,133
為替差損益	199,570	36,240
営業収益合計	2,150,130	6,405,252
<b>営業費用</b>		
支払利息	129	-
受託者報酬	31,130	25,891
委託者報酬	653,610	543,676
その他費用	64,800	64,800
営業費用合計	749,669	634,367
営業利益又は営業損失( )	1,400,461	7,039,619
経常利益又は経常損失( )	1,400,461	7,039,619
当期純利益又は当期純損失( )	1,400,461	7,039,619
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	72,145	598,976
期首剰余金又は期首欠損金( )	19,108,375	15,653,088
剰余金増加額又は欠損金減少額	5,037,572	1,924,252
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	5,037,572	1,924,252
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	498,473	3,252,637
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	498,473	3,252,637
分配金	2,412,128	2,469,150
期末剰余金又は期末欠損金( )	15,653,088	25,891,266



## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって評価するものとします。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。 計算期間 当ファンドの計算期間は原則として、毎年12月21日から6月20日まで及び、6月21日から12月20日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとしたしますので、当計算期間は平成26年12月23日から平成27年6月22日までとなっております。

## (貸借対照表に関する注記)

期別	第13期 平成26年12月22日現在	第14期 平成27年6月22日現在
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中一部解約元本額		
期首元本額	157,149,304円	120,606,442円
期中追加設定元本額	4,899,099円	17,548,923円
期中一部解約元本額	41,441,961円	14,697,825円
2. 計算期間の末日における受益権の総数	120,606,442口	123,457,540口
3. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	15,653,088円	25,891,266円

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第13期 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14期 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
分配金の計算過程	分配金の計算過程
費用控除後の配当等収益額 3,538,076円	費用控除後の配当等収益額 2,996,005円
費用控除後・繰越欠損金補填後 0円	費用控除後・繰越欠損金補填後 0円
の有価証券等損益額	の有価証券等損益額
収益調整金額 5,728,351円	収益調整金額 7,064,023円
分配準備積立金額 4,344,326円	分配準備積立金額 4,823,693円
当ファンドの分配対象収益額 13,610,753円	当ファンドの分配対象収益額 14,883,721円
当ファンドの期末残存口数 120,606,442口	当ファンドの期末残存口数 123,457,540口
10,000口当たり収益分配対象額 1,128円	10,000口当たり収益分配対象額 1,205円
10,000口当たり分配金額 200円	10,000口当たり分配金額 200円
収益分配金金額 2,412,128円	収益分配金金額 2,469,150円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	期別	第13期		第14期	
		自	平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	自	平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
1.金融商品に対する取組方針			当ファンドは証券投資信託であり、金融商品を投資対象とし、信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき運用を行っております。	同左	
2.金融商品の内容及びリスク			当ファンドは、外国投資証券を主要投資対象として運用を行うため、当該外国投資証券にかかるリスクは、当ファンドに影響を及ぼします。投資対象とする金融商品は、価格変動、為替変動等に伴う市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。	同左	
3.金融商品に係るリスクの管理体制			委託会社では、取締役会が決定したリスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に運用リスク委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。	同左	

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	第13期 平成26年12月22日現在	第14期 平成27年6月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		貸借対照表計上額は原則として期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 売買目的有価証券 同左 (2) 有価証券以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券（売買目的有価証券を除く。）の決算日後の償還予定額		貸借対照表に計上している金銭債権はその全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

第13期(平成26年12月22日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	2,272,088
合計	2,272,088

第14期(平成27年6月22日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	9,045,873
合計	9,045,873

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第13期 自 平成26年6月21日 至 平成26年12月22日	第14期 自 平成26年12月23日 至 平成27年6月22日
該当事項はありません。	同左

## (1口当たり情報に関する注記)

第13期 平成26年12月22日現在		第14期 平成27年6月22日現在	
1口当たり純資産額	0.8702円	1口当たり純資産額	0.7903円
(1万口当たり純資産額	8,702円)	(1万口当たり純資産額	7,903円)

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
日本円	投資証券	アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド	1,623,109	94,588,462	
日本円合計			1,623,109	94,588,462	
米ドル	投資証券	アバディーン・リクイディティ・ファンド(ルクス)米ドル	10	11,370.15	
米ドル合計			10	11,370.15 (1,395,003)	
合計				95,983,465 (1,395,003)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注4)当ファンドの投資対象は「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」のユニットのうち、クラスN 1です。

(注5)当ファンドの投資対象は「アバディーン・リクイディティ・ファンド(ルクス)米ドル」のユニットのうち、クラスZ 2です。

(注6)「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」につきましては、口数の記載を1,000倍で表示し、評価額単価を1,000分の1として評価額を算出しております。

## 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	投資証券 1銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）およびブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）は、「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」および「アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル」の投資証券を主要投資対象としております。

なお、同投資信託の状況は以下のとおりです。

#### 1. 「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」

以下に記載した情報は、委託会社が同信託の管理事務代行会社であるアバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイからの情報に基づき、平成26年9月末日の状況を併記したものです。従って、現地の法律に基づいて作成された正式財務諸表とは、同一の様式ではありません。

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

#### 信託財産の状況 （平成26年9月末日現在）

区分	金額
資産	千米ドル
投資有価証券	63,272
預金	354
未収追加設定金	85
未収利息および未収配当金	633
資産合計	64,344
負債	
購入投資有価証券未払金	640
未払費用	127
未払解約金	997
その他負債	630
負債合計	2,394
純資産額	61,950

#### 損益計算書 （平成25年10月1日から平成26年9月30日まで）

区分	金額
投資収益	千米ドル
運用収入	7,095
為替予約取引売買損益	360
投資有価証券評価差損益	6,097
投資有価証券売買損益	513
為替予約取引評価差損益	11
投資収益合計	114
費用	
投資顧問料	591
保管費用	149
管理費用	56
籍登録に係る代行手数料等	32
管理会社手数料	20
税金	15
その他事務管理費用	36
銀行利子	1
費用合計	900
損益金	786

組入資産の明細  
投資有価証券

(平成26年9月末日現在)

銘柄名	額面金額	評価額
(Corporate Bonds)		千米ドル
Cia Energetica de Sao Paulo 9.75% 15.01.2015	4,000,000	2,546
(Government Bonds)		
Brazil (Federal Republic of) 0% 01.10.2014	26,780,000	10,929
Brazil (Federal Republic of) 0% 01.07.2015	1,700,000	638
Brazil (Federal Republic of) 0% 01.01.2016	37,090,000	13,133
Brazil (Federal Republic of) 10% 01.01.2017	20,620,000	8,048
Brazil (Federal Republic of) (Index Linked) 6% 15.08.2016	16,950,000	17,302
Brazil (Federal Republic of) (Index Linked) 6% 15.05.2017	10,350,000	10,594
Brazil (Federal Republic of) (Index Linked) 6% 15.08.2018	80,000	82
合計		63,272

## 1口当たり情報

(平成26年9月末日現在)	
1口当たり純資産額	63,667.15円

注) 当ファンドが投資対象としている「アバディーン・グローバル・ブラジル・ボンド・ファンド」のユニットのうち、クラスN-1の1口当たり純資産です。

## 2. 「アバディーン・リクイディティ・ファンド（ルクス）米ドル」の状況

以下に記載した情報は、委託会社が同証券の管理事務代行会社であるアバディーン・グローバル・サービスズ・エス・エイからの情報に基づき、平成26年9月末日の状況を併記したものです。従って、現地の法律に基づいて作成された正式財務諸表とは、同一の様式ではありません。

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

## 信託財産の状況

(平成26年9月末日現在)

区分	金額
資産	千米ドル
投資有価証券	1,418,949
預金	503,360
未収利息	1,403
その他	131
資産合計	1,923,843
負債	
未払費用	495
その他	1,947
負債合計	2,442
純資産額	1,921,401

## 損益計算書

(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

区分	金額
投資収益	千米ドル
投資有価証券評価差損益	814
受取利息	2,827
預金利息	168
投資収益合計	2,181
費用	
委託者報酬	827
管理報酬	150
監査報酬等	217
その他費用	440
費用合計	1,634
損益金	547

組入資産の明細  
投資有価証券

(平成26年9月末日現在)

銘柄名	償還日/満期日	額面金額	評価額
<債券>			千円ドル
ANZ New Zealand International (EMTN)	28/05/2015	61,000,000	61,329
Bank Nederlandse Gemeenten	07/05/2015	8,120,000	8,122
BNP Paribas (EMTN)	15/01/2015	20,000,000	20,004
BNP Paribas (MTN)	22/12/2014	10,000,000	10,057
Caisse des Depots et Consignations (EMTN)	25/11/2014	10,000,000	10,003
Commonwealth Bank of Australia (EMTN)	15/10/2014	49,500,000	49,566
Commonwealth Bank of Australia	18/09/2015	2,150,000	2,167
DBS Bank (EMTN)	14/04/2015	14,400,000	14,399
Eurofima	27/03/2015	19,700,000	19,728
FMS Wertmanagement (EMTN)	01/09/2015	4,400,000	4,409
HSBC Bank (GMTN)	13/02/2015	15,000,000	15,115
Kommunalbanken	26/01/2015	27,950,000	27,954
Kommunalbanken	26/01/2015	1,200,000	1,200
LandeskreditbankBaden-Wuerttemberg	14/09/2015	17,500,000	17,521
Foerderbank (EMTN)			
Merck Sharp & Dohme (GMTN)	01/03/2015	10,000,000	10,184
National Australia Bank (EMTN)	22/01/2015	20,000,000	20,016
Nederlandse Financierings-Maatschappij voor Ontwikkelingslanden (EMTN)	02/03/2015	9,200,000	9,236
Nederlandse Waterschapsbank (EMTN)	17/03/2015	20,000,000	20,004
Nederlandse Waterschapsbank (EMTN)	27/10/2014	16,000,000	16,000
Nederlandse Waterschapsbank (EMTN)	06/11/2014	7,000,000	7,001
Nederlandse Waterschapsbank (EMTN)	27/10/2014	3,725,000	3,725
New York Life Global Funding	12/01/2015	2,040,000	2,046
Nordea Bank (EMTN)	13/11/2014	7,600,000	7,630
Nordea Bank	13/11/2014	500,000	502
Oversea-Chinese Banking Corp	13/03/2015	1,590,000	1,598
Royal Bank of Canada (MTN)	06/01/2015	13,500,000	13,509
Royal Bank of Canada (GMTN)	30/10/2014	1,000,000	1,001
Skandinaviska Enskilda Banken AB	03/10/2014	1,000,000	1,000
State of North Rhine-Westphalia	06/03/2015	14,300,000	14,307
Statoil ASA (GMTN)	15/10/2014	617,000	618
Toyota Motor Credit (GMTN)	17/11/2014	11,395,000	11,410
Toyota Motor Credit (MTN)	10/03/2015	3,200,000	3,203
Toyota Motor Credit (MTN)	14/01/2015	900,000	900
UBS	23/01/2015	4,000,000	4,020
Wells Fargo & Co (GMTN)	01/10/2014	507,000	507
合計			409,991
<マネー・マーケット>			千円ドル
ABN Amro Bank	08/12/2014	20,000,000	19,991
ABN Amro Bank	30/10/2014	10,000,000	9,998
Agence Centrale Organismes de Securite Sociale	15/12/2014	25,000,000	24,990
Agence Centrale Organismes de Securite Sociale	09/12/2014	14,000,000	13,994
AMP Bank	09/02/2015	25,000,000	24,972
AMP Bank	08/12/2014	15,000,000	14,993
Bank of Tokyo Mitsubishi	26/11/2014	25,000,000	24,990
Banque Federative du Credit Mutuel	23/03/2015	40,000,000	39,943
Barclays Bank	06/10/2014	18,000,000	17,999





銘柄名	償還日/満期日	額面金額	評価額
BNP Paribas	28/10/2014	20,000,000	19,997
Credit Agricole	04/11/2014	15,000,000	14,997
Credit Suisse	03/12/2014	18,000,000	17,984
Credit Suisse Sydney	01/12/2014	25,000,000	24,990
DZ Privatbank	28/11/2014	50,000,000	49,979
DZ Privatbank	17/11/2014	30,000,000	29,989
Fingrid Oyj	29/01/2015	25,000,000	24,973
Fingrid Oyj	23/10/2014	20,000,000	19,997
HSBC France	28/10/2014	15,000,000	14,998
ING Bank	10/12/2014	15,000,000	14,994
La Banque Postale	02/12/2014	25,000,000	24,989
La Banque Postale	12/11/2014	25,000,000	24,993
Macquarie Bank	26/11/2014	19,500,000	19,493
Macquarie Bank	10/03/2015	15,000,000	14,978
Mitsubishi UFJ Trust and Banking	24/10/2014	30,000,000	29,995
Mitsubishi UFJ Trust and Banking	31/12/2014	10,000,000	9,994
Mizuho Bank	03/12/2014	35,500,000	35,485
Mizuho Bank	28/10/2014	20,000,000	19,996
Mizuho Bank	28/11/2014	10,000,000	9,996
Mizuho Bank	07/11/2014	10,000,000	9,998
National Australia Bank	28/09/2015	3,525,000	3,604
Natixis	06/11/2014	25,000,000	24,994
Oversea Chinese Banking	03/11/2014	30,000,000	29,994
Oversea Chinese Banking	23/12/2014	700,000	700
Pohjola Bank	19/12/2014	28,500,000	28,484
Pohjola Bank	28/11/2014	13,000,000	12,995
Pohjola Bank	26/01/2015	12,000,000	11,988
Pohjola Bank	27/02/2015	11,000,000	10,986
Pohjola Bank	09/01/2015	7,600,000	7,595
Pohjola Bank	16/03/2015	5,500,000	5,492
Pohjola Bank	31/03/2015	3,000,000	2,996
SBAB Bank	19/11/2014	18,000,000	17,995
Schlumberger Finance	14/11/2014	20,000,000	19,995
Sumitomo Mitsui Banking	28/11/2014	30,000,000	29,990
Suncorp-Metway	12/11/2014	25,000,000	24,994
Suncorp-Metway	15/10/2014	13,000,000	12,998
Suncorp-Metway	05/11/2014	9,000,000	8,997
Unilever	05/11/2014	15,000,000	14,995
Unilever	31/10/2014	9,000,000	8,998
Wells Fargo & Co	27/02/2015	40,000,000	40,000
Wells Fargo & Co	12/02/2015	5,000,000	5,000
Zurich Finance UK	13/11/2014	30,000,000	29,993
Zurich Finance USA	28/11/2014	20,000,000	19,994
Zurich Finance USA	23/12/2014	10,500,000	10,496
合計			1,008,958
総合計			1,418,949

## 1口当たり情報

(平成26年9月末日現在)

1口当たり純資産額 1,135.68米ドル

注) 当ファンドが投資対象としている「アバディーン・リクイディティ・ファンド(ルクス)米ドル」のユニットのうち、クラスZ-2の1口当たり純資産額です。

**2【ファンドの現況】**  
**【純資産額計算書】**

(平成27年6月末日現在)

## &lt; 毎月決算型 &gt;

資産総額	1,299,934,709 円
負債総額	2,679,536 円
純資産総額 ( - )	1,297,255,173 円
発行済数量	2,014,395,018 口
1口当たり純資産額 ( / )	0.6440 円

## &lt; 年2回決算型 &gt;

資産総額	97,286,341 円
負債総額	868,962 円
純資産総額 ( - )	96,417,379 円
発行済数量	123,929,829 口
1口当たり純資産額 ( / )	0.7780 円

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1. 名義書換手続き等  
名義書換は行われません。
2. 受益者等に対する特典  
該当事項はありません。
3. 譲渡制限の内容  
譲渡制限はありません。
4. 受益権の譲渡  
受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとし  
ます。  
前記の申請がある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受  
益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座  
簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設し  
たものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関  
等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口  
数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。  
前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記  
録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異  
なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断し  
たときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。
5. 受益権の譲渡の対抗要件  
受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対  
抗することができません。
6. 受益権の再分割  
委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。
7. 償還金  
償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日  
以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設  
定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権につ  
いては原則として購入申込者としてします。）に支払います。
8. 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて  
振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払  
い、換金の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほ  
か、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### a．資本金の額（本書提出日現在）

資本金	： 3,680.4百万円
発行する株式の総数	： 320,000株
発行済株式の総数	： 308,065株

##### 最近5年間における資本金の額の増減

平成23年8月3日	： 資本金を2,090.4百万円から2,480.4百万円に増資
平成25年3月25日	： 資本金を2,480.4百万円から2,980.4百万円に増資
平成26年5月26日	： 資本金を2,980.4百万円から3,680.4百万円に増資

##### b．委託会社の機構

###### 経営の意思決定機構

取締役を株主総会において選任します。取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠としてまたは増員により選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役の中から5名以内の代表取締役を選定します。また、取締役会は、代表取締役の中から取締役社長を選定します。取締役会は、取締役の中から取締役会長、取締役副社長、専務取締役および常務取締役を選任することができます。

取締役会は取締役社長が招集し、議長となります。取締役社長がこれを招集することができずまたはこれを招集することを欲しないときは、取締役会があらかじめ定めた順序にしたがい、他の取締役がこれを招集します。取締役会の招集通知は、各取締役および各監査役に対し会日の3日前までにこれを発します。全取締役および監査役の同意があるときは、招集通知を省略しまたは招集期間を短縮することができます。取締役会は、法令または定款に定める事項、その他当会社の重要な業務の執行について決定します。

###### 運用の意思決定機構

ファンドの信託約款等に定められている運用の基本方針に基づき、「投資政策委員会」において審議、決定される運用方針に沿って、運用部門が原則的に運用の指図を行います。

「投資政策委員会」は以下のように運営されています。

###### < 構成 >

各ファンド運用責任者をもって構成します。

###### < 開催 >

原則として月1回開催します。

###### < 審議事項 >

次に定める事項等を審議、承認または必要に応じて決定を行います。

- ・ファンドの運用方針の策定
- ・ファンドの運用方針の変更
- ・その他上記に準ずる事項

###### < その他 >

審議方法、議事録、通知等および事務局を投資政策委員会の規則により定めます。

#### 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業務を行っています。

平成27年6月末日現在、委託会社が運用する投資信託は22本であり、その純資産総額の合計は199,613百万円です。（ただし、親投資信託を除きます。）

### 3【委託会社等の経理状況】

#### 1. 財務諸表の作成方法について

委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、当事業年度（平成25年10月1日から平成26年9月30日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

財務諸表に記載してある金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

#### 2. 監査証明について

委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期事業年度（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

## ( 1 ) 【貸借対照表】

( 単位：千円 )

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	783,084	996,294
立替金	2,126	420
前払金	21	25
前払費用	12,489	11,740
未収入金	61,240	133,987
未収委託者報酬	159,975	153,490
未収投資助言報酬	30,300	46,800
流動資産合計	1,049,236	1,342,758
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	* 1 0	* 1 0
器具備品	* 1 0	* 1 0
有形固定資産合計	0	0
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
長期差入保証金	38,911	38,952
その他投資等	952	952
貸倒引当金（投資等）	792	792
投資その他の資産合計	39,071	39,112
固定資産合計	39,072	39,112
資産合計	1,088,308	1,381,871
<b>負債の部</b>		
流動負債		
預り金	7,507	9,178
未払金	209,741	200,413
未払償還金	13,342	-
未払手数料	39,237	37,452
未払委託調査費	130,016	119,502
その他未払金	27,145	43,458
未払費用	81,341	186,488
未払法人税等	7,454	7,361
未払消費税等	15,346	21,699
賞与引当金	224,977	250,768
流動負債合計	546,369	675,910
固定負債		
退職給付引当金	77,157	96,675
役員退職慰労引当金	6,376	8,229
固定負債合計	83,534	104,905
負債合計	629,903	780,815
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,980,400	3,680,400
資本剰余金		
資本準備金	1,847,936	1,847,936
利益剰余金		
その他利益剰余金		

繰越利益剰余金	4,369,930	4,927,280
株主資本合計	458,405	601,055
純資産合計	458,405	601,055
負債・純資産合計	1,088,308	1,381,871



## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)	当事業年度 (自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)
営業収益		
委託者報酬	1,476,986	1,474,345
投資助言報酬	121,200	187,200
その他営業収益	216,660	270,953
営業収益計	1,814,847	1,932,498
営業費用		
支払手数料	403,609	381,957
広告宣伝費	29,379	16,753
公告費	1,130	1,130
調査費	12,680	10,083
委託調査費	482,728	491,379
委託計算費	167,572	181,971
通信費	3,254	3,442
印刷費	17,793	16,512
協会費	2,880	2,795
営業費用計	1,121,029	1,106,026
一般管理費		
役員報酬	* 1 58,053	* 1 62,377
給料・手当	363,645	382,703
賞与	10,562	29,146
交際費	2,781	3,342
寄付金	-	83
旅費交通費	18,872	10,478
租税公課	16,092	17,542
不動産賃借料	52,925	48,317
退職給付費用	37,171	40,218
役員退職給付費用	612	612
役員退職慰労引当金繰入	1,742	1,852
賞与引当金繰入	182,845	175,122
固定資産減価償却費	486	1,148
事務委託費	* 2 193,205	* 2 454,335
諸経費	96,269	130,907
一般管理費計	1,035,267	1,358,189
営業損失	341,449	531,716
営業外収益		
受取利息	104	124
時効成立償還金	-	9,638
その他	29	84
営業外収益計	133	9,846
営業外費用		
時効成立後支払償還金	333	-
固定資産除却損	0	0
為替差損	26,034	22,803
営業外費用計	26,367	22,803
経常損失	367,684	544,673

特別損失				
減損損失	* 3	6,213	* 3	11,466
特別損失計		6,213		11,466
税引前当期純損失		373,897		556,139
法人税、住民税及び事業税		1,210		1,210
当期純損失		375,107		557,349

## （ 3 ） 【株主資本等変動計算書】

前事業年度

（自平成24年10月 1日 至平成25年 9月30日）

（単位：千円）

項目	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	2,480,400	1,847,936	1,847,936
当期変動額			
新株発行	500,000	-	-
当期純利益	-	-	-
当期変動額合計	500,000	-	-
当期末残高	2,980,400	1,847,936	1,847,936

項目	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	3,994,822	3,994,822	333,513	333,513
当期変動額				
新株発行	-	-	500,000	500,000
当期純利益	375,107	375,107	375,107	375,107
当期変動額合計	375,107	375,107	124,892	124,892
当期末残高	4,369,930	4,369,930	458,405	458,405

当事業年度

（自平成25年10月 1日 至平成26年 9月30日）

（単位：千円）

項目	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	2,980,400	1,847,936	1,847,936
当期変動額			
新株発行	700,000	-	-
当期純損失	-	-	-
当期変動額合計	700,000	-	-
当期末残高	3,680,400	1,847,936	1,847,936

項目	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	4,369,930	4,369,930	458,405	458,405
当期変動額				
新株発行	-	-	700,000	700,000
当期純損失	557,349	557,349	557,349	557,349
当期変動額合計	557,349	557,349	142,650	142,650
当期末残高	4,927,280	4,927,280	601,055	601,055

## 重要な会計方針

### 1．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備	14年
器具備品	4年

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

### 2．引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付の支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の事業年度から一括して費用処理することとしております。

#### (3) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (4) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### 3．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

### 4．その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。

## 注記事項

## （貸借対照表関係）

## \* 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	-	-

## （損益計算書関係）

## \* 1 役員報酬の限度額

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
取締役 年額	600,000千円以内	同左
監査役 年額	50,000千円以内	同左

## \* 2 関係会社との取引高

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
営業取引による取引高		
事務委託費	82,341千円	191,595千円

## \* 3 固定資産の減損会計関連

当社は以下の資産において減損損失を計上しました。

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

用途：本店事務所  
種類：器具備品  
場所：東京都港区

## （1）減損損失を認識するに至った経緯

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっており、将来キャッシュフローの総額が対象資産の帳簿価額を下回ることから、減損損失を計上しました。

## （2）グルーピングの方法

当社の事業用に供している有形固定資産及び無形固定資産については、全社で1つの資産グループとしております。

## （3）回収可能価額の算定方法等

正味売却価額により測定しており、備忘価額または処分価額としております。

## （4）減損損失の金額

器具備品 6,213千円

当事業年度（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）

用途：本店事務所  
種類：器具備品、建物付属設備  
場所：東京都港区

- ( 1 ) 減損損失を認識するに至った経緯  
営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっており、将来キャッシュフローの総額が対象資産の帳簿価額を下回ることから、減損損失を計上しました。
- ( 2 ) グルーピングの方法  
当社の事業用に供している有形固定資産及び無形固定資産については、全社で1つの資産グループとしております。
- ( 3 ) 回収可能価額の算定方法等  
正味売却価額により測定しており、備忘価額または処分価額としております。
- ( 4 ) 減損損失の金額

器具備品	11,239千円
建物付属設備	226千円

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	308,063	1	-	308,064

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項ありません。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項ありません。

## 4. 配当に関する事項

該当事項ありません。

当事業年度(自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	308,064	1	-	308,065

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項ありません。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項ありません。

## 4. 配当に関する事項

該当事項ありません。

## (リース取引関係)

該当事項はありません。

## (有価証券関係)

該当事項はありません。

## （デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

## （金融商品に関する注記）

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## （1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業、投資助言業等を行っており、余剰資金運用については、銀行預金等安全性の高い金融資産で運用しております。現在、金融機関及びその他からの借入はありません。

## （2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる運用報酬の未決済額であり、信託財産は受託銀行において分別管理されているため、信用リスクは極めて軽微であると認識しております。

未収入金は概ね、また、未収投資助言報酬は全額、海外の関連会社との取引により生じたものであり、原則、短期に決済が行われることにより、回収が不能となるリスクはほとんどないものと考えております。

預金預入先につきましては、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(<注2>参照のこと)。

（単位：千円）

	貸借対照表	時価	差額
(1)預金	783,084	783,084	-
(2)未収委託者報酬	159,975	159,975	-
(3)未収入金	61,240	61,240	-
(4)未収投資助言報酬	30,300	30,300	-
資産計	1,034,599	1,034,599	-
(1)未払償還金	13,342	13,342	-
(2)未払手数料	39,237	39,237	-
(3)未払委託調査費	130,016	130,016	-
(4)その他未払金	27,145	27,145	-
負債計	209,741	209,741	-

## &lt;注1&gt;金融商品の時価の算定方法

## 資産

## (1)預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2)未収委託者報酬、(3)未収入金、(4)未収投資助言報酬

上記は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## 負債

## (1)未払手数料、(2)未払委託調査費、(3)その他未払金、(4)その他未払金

上記は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## &lt;注2&gt;時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年9月30日	平成26年9月30日
長期差入保証金	38,911	38,952

上記は市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

## &lt;注3&gt;金銭債権の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超
預金	783,084	-
未収委託者報酬	159,975	-
未収入金	61,240	-
未収投資助言報酬	30,300	-
金銭債権合計	1,034,599	-

当事業年度(自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業、投資助言業等を行っており、余剰資金運用については、銀行預金等安全性の高い金融資産で運用しております。現在、金融機関及びその他からの借入はありません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる運用報酬の未決済額であり、信託財産は受託銀行において分別管理されているため、信用リスクは極めて軽微であると認識しております。

未収入金は概ね、また、未収投資助言報酬は全額、海外の関連会社との取引により生じたものであり、原則、短期に決済が行われることにより、回収が不能となるリスクはほとんどないものと考えております。

預金預入先に付きましては、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(<注2>参照のこと)。

(単位：千円)

	貸借対照表	時価	差額
(1)預金	996,294	996,294	-
(2)未収委託者報酬	153,490	153,490	-
(3)未収入金	133,987	133,987	-
(4)未収投資助言報酬	46,800	46,800	-
資産計	1,330,572	1,330,572	-
(1)未払手数料	37,452	37,452	-
(2)未払委託調査費	119,502	119,502	-
(3)その他未払金	43,458	43,458	-
負債計	200,413	200,413	-



## &lt;注1&gt;金融商品の時価の算定方法

## 資産

## (1)預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2)未収委託者報酬、(3)未収入金、(4)未収投資助言報酬

上記は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## 負債

## (1)未払手数料、(2)未払委託調査費、(3)その他未払金、

上記は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## &lt;注2&gt;時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年9月30日	平成26年9月30日
長期差入保証金	38,911	38,952

上記は市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

## &lt;注3&gt;金銭債権の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超
預金	996,294	-
未収委託者報酬	153,490	-
未収入金	133,987	-
未収投資助言報酬	46,800	-
金銭債権合計	1,330,572	-

## (退職給付関係)

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

1. 採用している制度の概要：確定給付型退職一時金制度（キャッシュバランス型退職金）及び確定拠出企業型年金を設けております。

(単位：千円)

## 2. 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	77,157
退職給付引当金	77,157

## 3. 退職給付費用の内訳

(単位：千円)

勤務費用	16,411
利息費用	562
数理計算上の差異の費用処理額	1,137
確定拠出年金に係る要拠出額	19,059

## 4. 退職給付債務の計算基礎

割引率	1.00%
退職給付見込額の期間配分方法	発生給付評価方式
数理計算上の差異の処理年数	発生年度に一括費用処理

当事業年度(自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)

1. 採用している制度の概要: 確定給付型退職一時金制度(キャッシュバランス型退職金)及び確定拠出企業型年金を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(単位: 千円)
退職給付債務の期首残高	77,157
勤務費用	16,949
利息費用	728
数理計算上の差異の発生額	2,831
退職給付の支払額	991
<u>退職給付債務の期末残高</u>	<u>96,675</u>

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	(単位: 千円)
退職給付債務	96,675
<u>未積立退職給付債務</u>	<u>96,675</u>
<u>貸借対照表に計上された負債の額</u>	<u>96,675</u>

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(単位: 千円)
勤務費用	16,949
利息費用	728
数理計算上の差異の費用処理額	2,831
<u>確定給付制度に係る退職給付費用</u>	<u>20,509</u>

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎  
割引率 0.70%

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、19,709千円でありました。

(ストックオプション等関係)

該当事項はありません。

## （税効果会計関係）

## 1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因の内訳

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
	千円	千円
（繰延税金資産）		
未払費用等否認	80,336	66,464
退職給付引当金損金不算入額	27,498	34,455
賞与引当金損金不算入額	77,378	81,198
貸倒引当金損金不算入額	282	282
役員退職慰労引当金損金不算入額	2,272	2,932
未払事業税	2,479	2,192
減価償却費損金算入限度超過額	9,731	8,287
減損損失	2,324	4,086
繰越欠損金	491,965	658,043
繰延税金資産小計	694,270	857,944
評価性引当額	694,270	857,944
繰延税金負債との相殺		
繰延税金資産計		

## （繰延税金負債）

該当ありません。

## 2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当事業年度 (平成26年9月30日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
（調整）		
評価性引当額	33.8%	35.6%
住民税均等割	0.3%	0.2%
役員賞与等永久に損金に算入されない金額	4.2%	2.3%
税効果適用後の法人税等の負担率	0.3%	0.2%

## 3．法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

税率変更に関する注記「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、平成26年10月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等にかかる繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の38.01%から35.64%となります。この税率変更による影響はありません。

## （持分法投資損益等）

該当事項はありません。

## （資産除去債務）

重要性がないため、記載を省略しております。

## (セグメント情報等)

## [セグメント情報]

当社の報告セグメントは、「投資運用業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## [関連情報]

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	投資助言報酬	その他営業 収益	合計
外部顧客への売上高	1,476,986	121,200	216,660	1,814,847

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

（単位：千円）

日本	シンガポール	英国	その他	合計
1,478,452	288,663	41,127	6,603	1,814,847

注）売上高は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が当事業年度末貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
アバディーン・アセット・マネジメント・アジア・リミテッド	288,663	投資運用業

当事業年度（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	投資助言報酬	その他営業 収益	合計
外部顧客への売上高	1,474,345	187,200	270,953	1,932,498

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

（単位：千円）

日本	シンガポール	英国	その他	合計
1,475,556	335,420	110,622	10,899	1,932,498

注）売上高は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が当事業年度末貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
アバディーン・アセット・マネジメント・アジア・リミテッド	335,420	投資運用業

(関連当事者との取引)

## (1) 親会社及び法人主要株主等

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社	アバディーン・アセット・マネジメントPLC	英国スコットランド・アバディーン	119,919千英国ポンド	資産運用業	(被所有) 100.0	一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	82,341	未払費用	27,241
						新株の発行	増資	500,000	-	-

当事業年度（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社	アバディーン・アセット・マネジメントPLC	英国スコットランド・アバディーン	131,430千英国ポンド	資産運用業	(被所有) 100.0	一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	191,595	未払費用	61,035
									その他未払金	849
						新株の発行	増資	700,000	-	-

## (2) 兄弟会社等

前事業年度（自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネジメント・アジア・リミテッド	シンガポール	146,975千シンガポールドル	資産運用業	無し	資産運用の投資助言契約	資産運用の投資助言契約に係る投資助言報酬	121,200	未収投資助言報酬	30,300
						一般管理事務に係る事務委託等	事務委託費等	75,211	未払費用	15,589
						投資信託の運用外部委託	投資信託の運用外部委託に係る費用	100,288	未払委託調査費	27,336
						投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	167,463	未収入金	42,972
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネジメント・ジャーズ・リミテッド	英国スコットランド・アバディーン	28,592千英国ポンド	資産運用業	無し	投資信託の運用外部委託	投資信託の運用外部委託に係る費用	381,531	未払委託調査費	102,455
						投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	41,127	未収入金	16,370
						一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	11,522	未払費用	3,119

当事業年度（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出 資金	事業の 内容又 は職業	議決権等の 所有（被所 有）割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （千円）  （注）	科目	期末残高 （千円）
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネジメント・アジア・リミテッド	シンガポール	146,975千シンガポールドル	資産運用業	無し		資産運用の投資助言契約に係る投資助言報酬	187,200	未収投資助言報酬	46,800
							一般管理事務に係る事務委託等	186,731	未払費用	65,225
							投資信託の運用外部委託	104,505	その他未払金	29,658
							投資信託等に関するリエゾン業務の提供	148,220	未払委託調査費	27,012
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネジメント・アジア・リミテッド	英国スコットランド・アバディーン	28,592千英国ポンド	資産運用業	無し		投資信託の運用外部委託	386,032	未収入金	34,357
							投資信託等に関するリエゾン業務の提供	110,622	未払委託調査費	92,286
							一般管理事務に係る事務委託等	59,129	未払費用	19,545

- （注）1．取引金額に消費税等は含まれておりません。  
2．取引条件及び取引条件の決定方針等  
上記会社との取引については、市場価格を参考に決定しております。

## （3）親会社に関する注記

親会社情報

アバディーン・アセット・マネジメントPLC（ロンドン証券取引所に上場）

## （1株当たり情報）

区分	前事業年度 （自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）	当事業年度 （自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）
1株当たり純資産額	1,488円01銭	1,951円06銭
1株当たり当期純損失	1,217円63銭	1,809円19銭

（注）潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

（注）1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自平成24年10月1日 至平成25年9月30日）	当事業年度 （自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）
当期純損失（千円）	375,107	557,349
普通株主に帰属しない金額（千円）		
（うち利益処分による役員賞与金）		
普通株式に係る当期純損失（千円）	375,107	557,349
期中平均株式数（株）	308,063.52	308,064.35

## （重要な後発事象）

該当事項はありません。

## 中間財務諸表

1. 委託会社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）第38条及び第57条の規定に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日 内閣府令第52号）に基づいて作成しております。  
また、中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第23期事業年度中間会計期間（自平成26年10月1日至平成27年3月31日）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

## ( 1 ) 中間貸借対照表

(単位：千円)

		当中間会計期間末 (平成27年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金・預金		770,870
未収委託者報酬		192,663
未収運用受託報酬		4,000
未収投資助言報酬		59,400
未収入金		156,679
その他		31,002
流動資産合計		1,214,615
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	*1	
器具備品		3,824
建物附属設備		0
有形固定資産合計		3,824
無形固定資産		0
投資その他の資産		
長期差入保証金		38,952
その他投資等		952
貸倒引当金		792
投資その他の資産合計		39,112
固定資産合計		42,936
資産合計		1,257,552
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
預り金		9,942
未払金		365,715
未払費用		128,504
未払法人税等		6,636
未払消費税等	*2	16,819
賞与引当金		167,141
流動負債合計		694,760
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金		103,221
役員退職慰労引当金		9,085
固定負債合計		112,307
負債合計		807,067
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金		3,680,400
資本剰余金		
資本準備金		1,847,936
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		5,077,851
株主資本合計		450,485
純資産合計		450,485
負債・純資産合計		1,257,552



## ( 2 ) 中間損益計算書

( 単位：千円 )

		当中間会計期間 ( 自平成26年10月1日 至平成27年3月31日 )	
営業収益			
委託者報酬			738,845
運用受託報酬			4,000
投資助言報酬			118,800
その他営業収益			160,205
営業収益合計			1,021,851
営業費用			
一般管理費	*1		624,261
営業損失			140,909
営業外収益	*2		107
営業外費用	*3		9,163
経常損失			149,965
税引前中間純損失			149,965
法人税、住民税及び事業税			605
中間純損失			150,570

## ( 3 ) 中間株主資本等変動計算書

( 単位：千円 )

		当中間会計期間 ( 自平成26年10月1日 至平成27年3月31日 )	
--	--	---	--

項目	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	3,680,400	1,847,936	1,847,936
当中間期変動額			
当中間期純損失	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-
当中間期末残高	3,680,400	1,847,936	1,847,936

項目	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	4,927,280	4,927,280	601,055	601,055
当中間期変動額				
当中間期純損失	150,570	150,570	150,570	150,570
当中間期変動額合計	150,570	150,570	150,570	150,570
当中間期末残高	5,077,851	5,077,851	450,485	450,485

## 重要な会計方針

	当中間会計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
1. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定額法により償却しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 器具備品                      5年
2. 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。  (2) 退職給付引当金 従業員に対する退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生年度で一括費用処理しております。  (3) 役員退職慰労引当金 役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。  (4) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
4. 消費税等の処理	消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

## 注記事項

## （中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末 （平成27年3月31日現在）	
*1 有形固定資産の減価償却累計額 器具備品	88千円
*2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、未払消費税等として表示しております。	

## （中間損益計算書関係）

当中間会計期間 （自平成26年10月1日 至平成27年3月31日）	
*1 減価償却実施額 有形固定資産	88千円
*2 営業外収益の主要項目 受取利息	98千円
その他営業外収益	9千円
*3 営業外費用の主要項目 為替差損	9,163千円

## （中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自平成26年10月1日 至平成27年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式（株）	308,065	-	-	308,065

2. 自己株式に関する事項  
該当事項ありません。3. 新株予約権等に関する事項  
該当事項ありません。4. 配当に関する事項  
該当事項ありません。

## （リース取引関係）

該当事項ありません。

## （資産除去債務）

重要性がないため、記載を省略しております。

## （金融商品関係）

金融商品の時価等に関する事項

当中間会計期間末（平成27年3月31日現在）

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（<注2>参照のこと）。

（単位：千円）

	貸借対照表	時価	差額
(1)預金	770,870	770,870	-
(2)未収委託者報酬	192,663	192,663	-
(3)未収入金	156,679	156,679	-
(4)未収投資助言報酬	59,400	59,400	-
(5)未収運用受託報酬	4,000	4,000	-
資産計	1,183,613	1,183,613	-
(1)未払金	365,715	365,715	-
負債計	365,715	365,715	-

## &lt;注1&gt; 金融商品の時価の算定方法

## 資産

## (1) 預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収委託者報酬、(3)未収入金、(4)未収投資助言報酬、(5)未収運用受託報酬

上記は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## 負債

## (1) 未払金

上記は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## &lt;注2&gt; 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
長期差入保証金	38,952

上記は市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

## &lt;注3&gt;金銭債権の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超
現金・預金	770,870	-
未収委託者報酬	192,663	-
未収入金	156,679	-
未収投資助言報酬	59,400	-
未収運用受託報酬	4,000	-
金銭債権合計	1,183,613	-

（有価証券関係）  
該当事項ありません。

（デリバティブ取引関係）  
該当事項ありません。

（セグメント情報等）  
[セグメント情報]

当中間会計期間（自平成26年10月1日 至平成27年3月31日）

当社の報告セグメントは、「投資運用業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自平成26年10月1日 至平成27年3月31日）

### 1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他営業 収益	合計
外部顧客への 営業収益	738,845	4,000	118,800	160,205	1,021,851

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	シンガポール	英国	オーストラ リア	香港	合計
739,449	193,280	72,078	10,776	6,266	1,021,851

注) 営業収益は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

#### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アバディーン・アセット・マネジメント・ アジア・リミテッド	193,280	投資運用業

（持分法損益関係）  
該当事項ありません。

## （1株当たり情報）

当中間会計期間 （自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日）	
1株当たり純資産額	1,462円30銭
1株当たり中間純損失	488円76銭

- （注）1. 潜在株式調整後1株当たり中間純損失金額については、新株予約権付社債等の潜在株式がないため、また、1株当たり中間純損失金額のため、記載しておりません。
2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間末 （平成27年3月31日現在）
純資産の部の合計額（千円）	450,485
普通株式に係る中間会計期間末の純資産額（千円）	450,485
普通株式の発行済株式数（株）	308,065
普通株式の自己株式数（株）	-
1株当たり純資産の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数（株）	308,065

3. 1株当たり中間純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 （自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日）
中間純損失（千円）	150,570
普通株式に係る中間純損失（千円）	150,570
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式の期中平均株式数（株）	308,065

## （重要な後発事象）

該当事項ありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5【その他】

##### a．定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

##### b．訴訟事件その他の重要事項

本書提出日現在、委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

## (1) 受託会社

(平成27年3月末日現在)

名称	資本金の額	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託会社)	342,037百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	51,000百万円	

## (2) 販売会社

(平成27年3月末日現在)

名称	資本金の額	事業の内容
株式会社東京スター銀行	26,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
クレディ・スイス証券株式会社	78,100百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

## 2【関係業務の概要】

## (1) 受託会社

信託財産の保管・管理業務・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

## (2) 販売会社

募集の取扱いおよび販売を行い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

## 3【資本関係】

## (1) 受託会社

該当事項はありません。

## (2) 販売会社

該当事項はありません。



### 第3【参考情報】

当期間において、当ファンドにかかる金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は、以下のとおり提出されております。

臨時報告書	平成27年3月25日
有価証券報告書	平成27年3月13日
有価証券届出書	同上
臨時報告書	平成27年1月5日

## 独立監査人の監査報告書

平成26年12月15日

アバディーン投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 林 秀 行  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアバディーン投信投資顧問株式会社の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの第22期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アバディーン投信投資顧問株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成27年7月29日

アバディーン投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

P w C あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 大畑 茂

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）の平成26年12月23日から平成27年6月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ブラジル国債レアル債・ファンド（毎月決算型）の平成27年6月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

アバディーン投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成27年7月29日

アバディーン投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

## PwCあらた監査法人

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 大畑 茂

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）の平成26年12月23日から平成27年6月22日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ブラジル国債レアル債・ファンド（年2回決算型）の平成27年6月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

アバディーン投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成27年 5月22日

アバディーン投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 林 秀行  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社の経理状況」に掲げられているアバディーン投信投資顧問株式会社の平成26年10月1日から平成27年9月30日までの第23期事業年度の中間会計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、アバディーン投信投資顧問株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。